ESDフォーラム
ミュージアムジャック

テーマ［社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発］

報告書

2026年3月7日（土）14時～15時40分
タカミヤ環境ミュージアム

主催／北九州ESD協議会、静岡大学教育学部

はじめに

本事業は、令和５年度より ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に社会教育と学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージの開発し、その成果を全国に発信することを目的に展開してきました。

令和７年度は、カリキュラムパッケージの中心的なプログラム「ミュージアムジャック」の応用（カスタマイズの可能性の検証）を２０２６年３月７日（土）にタカミヤ環境ミュージアム（北九州市）にて行いました。今年度は、２００６年に発足した北九州市 ESD 協議会さまとの協働で「北九州 ESD 協議会活動報告&ESD フォーラムミュージアムジャック」として開催し、対面 67 名、ストリーミング配信（同時）は 128 件の方々とともに、カリキュラムパッケージの拡張性と可能性について考える時間を共有しました。

本報告書には、後半の ESD フォーラムミュージアムジャック「趣旨説明」「実践報告」「研究報告」「ラウンドテーブル」の発言録とスライド資料を掲載しました。発言録には、発言の要約を見出し（ブルー）として加筆してあります。ご参考にしていただけると幸いです。巻末には、当日の写真、令和５年度、令和６年度に開発したカリキュラムパッケージと「自分でつくるミニ絵本　静大生による誌上ミュージアムジャック」を添付いたしました。

ESD フォーラムミュージアムジャックの動画は、タカミヤ環境ミュージアム「環境最前線」からご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=kj6BaaF3o0Q

最後に、「みんなでつくる学びの場」をコンセプトに令和元年度より ESD フォーラムを開催してきました。ESD フォーラムを支えてくださったフォーラム参加者さま、北九州 ESD 協議会、タカミヤ環境ミュージアム、NPO 法人里山を考える会の関係者さま、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム ESD コーディネーターのみなさまにあらためて感謝申し上げます。

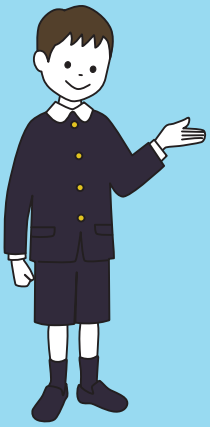
SDGs 達成の担い手育成（ESD）事業プロジェクトリーダー
静岡大学教授 田宮 縁

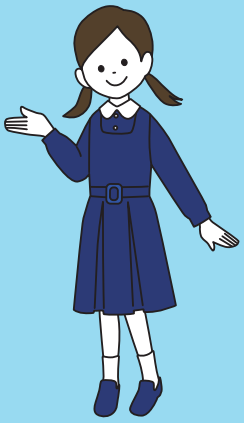
北九州ESD協議会 活動報告会
&
ESDフォーラムミュージアムジャック

テーマ［社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発］

日時 2026年3月7日(土) 13時～16時30分

場所 タカミヤ環境ミュージアム 多目的ホール
北九州市八幡東区東田2丁目2-6
TEL.093-663-6751





北九州ESD協議会は、2006年に発足した
市民団体・企業・教育機関・行政などから構成されたESD促進のためのネットワーク組織です。
国連大学から国内4カ所目の「ESD 促進のための拠点（RCE）」として認定され、
さまざまな活動を行っています。
今回は静岡大学教育学部との共催で、2025年度の活動報告を行います。
後半には、北九州ESD協議会会員のNPO法人里山を考える会が考案「ミュージアムジャック」を
全国展開した関係団体が実践・研究報告、参加者とともにブラッシュアップしていきます。

※1 ミュージアムジャックとは、社会教育と学校教育が連携し、おとなも子どもも持続可能な社会の構築をめざし行う教育活動。子どもの遊び心をくすぐり探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」（田宮 ,2018）が特徴。本物のミュージアムでガイドやスタッフの仕事を行う職場体験プログラム。
※2 ミュージアムジャックは、令和５年度・令和６年度文部科学省ユネスコ活動費補助金を活用し、静岡大学教育学部が中心となり「社会教育・学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージの開発」として全国発信しています。

詳細は
QRコードから

本イベントのご案内

プログラムの詳細は裏面をご覧ください▶

■定員／80名・参加費無料　※定員になり次第締切
■対象／学校教育関係者（幼～大）・社会教育関係者・学生・一般企業・NPO 法人・一般

［参加申込］
QRコードから申込サイトでエントリー ▶

本イベントは
タカミヤ環境ミュージアム 環境最前線より
ストリーミング配信いたします

［お問合わせ］北九州ESD協議会　kitakyushuesd@gmail.com
北九州市小倉北区紺屋町 13 番 1 号毎日西部会館 7F
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム　tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp
静岡市駿河区大谷836 ESD　静岡大学教育学部

●主催／北九州ESD協議会、静岡大学教育学部
●協力／タカミヤ環境ミュージアム、NPO法人里山を考える会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

北九州 ESD 協議会 活動報告会 & ESD フォーラム ミュージアムジャック

［プログラム］ ※プログラム及びスケジュールは、予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

12:30～ … 受付開始

13:00-13:45 … オープニングセッション ご挨拶 日高 京子 北九州ESD協議会代表

ESDトークセッション

登壇者 北九州ESD協議会 2025年度チーム活動事業 3プロジェクト

ファシリテーター 大久保 大助 特定非営利活動法人 KID's work

休憩

14:00-15:40 … ESDフォーラム ミュージアムジャック2025

［趣旨説明］ プロジェクトリーダー 田宮 縁 静岡大学教授

［実践報告］
- ●明治学園小学校 × タカミヤ環境ミュージアム
  諸藤 大揮 明治学園小学校教諭
- ●伊豆の国市立大仁北小学校 × 伊豆半島ジオパークミュージアム
  福井 孝子 伊豆の国市立大仁北小学校校長
- ●ミュージアムジャック初年度の取り組み
  松原 草太 静岡市立登呂博物館学芸員

［研究報告］
- ●ミュージアムジャックの拡張性と可能性
  田宮 縁 静岡大学教授 柿島 安博 中央動物総合専門学校顧問

［ラウンドテーブル］

15:40-16:25 … ポスターセッション 北九州ESD協議会 20プロジェクト程度

16:25-16:30 … クロージングセッション 松岡 俊和 タカミヤ環境ミュージアム館長

16:30～ … 交流会（プロジェクトの関係者がポスター前におりますので、さらにお話をうかがいたい方は直接お声がけください。）

お知らせ ESDフォーラムミュージアムジャック当日資料は2月28日に公開予定。
QRコードよりダウンロードできます。

子どもたちがタカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして、
来館者へワクワク楽しいガイディングを行います!!

明治学園小学校

ミュージアムジャック!!

2026年1月16日（金）
❶9:30～11:30▶4年1組 ❷12:30～14:30▶4年3組

2026年1月17日（土）
❸9:10～11:10▶4年2組

※時間は、変更になることがあります。

タカミヤ
環境ミュージアム
入館料無料

北九州 ESD 協議会活動報告会&ESD フォーラムミュージアムジャック

日時：026 年 3 月 7 日（土）13:00～17:00　場所：タカミヤ環境ミュージアム

ESD フォーラムミュージアムジャック講演録（100 分）

柿島安博（ESD 国際化・ふじのくにコンソーシアム ESD コーディネーター・中央動物専門学校顧問）

それでは、「ESD フォーラムミュージアムジャック」 を開催いたします。 ここからご覧いただく方も私は、総合司会を務めさせていただきます ESD コーディネーター 中央動物総合専門学校 柿島安博と申します。よろしくお願いいたします。

資料につきましては、 スライドにあります QR コードよりダウンロードできます。必要に応じてご活用ください。まずは、 本事業のプロジェクトリーダー 静岡大学 田宮縁より、事業概要の説明をいたします。

【趣旨説明】

田宮　縁（プロジェクトリーダー・静岡大学教授）

社会教育と学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージの開発と発信からスタート

本事業では、 ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、 社会教育と学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、発信すること、また、多様なステークホルダーとのネットワーク構築をねらっています。 2023 年度からの 2 年間は文部科学省ユネスコ活動費補助金を活用しておりました。

現行の学習指導要領は、「持続可能な社会の創り手」を育成することをめざしている

現行の幼稚園から高校までの学習指導要領には初めて前文が付けられ、「カリキュラムマネジメント」「地域に開かれた教育課程」「学校種間の接続」を行うことで「持続可能な社会の創り手」を育成することをめざしているということが明記され各教科にその理念が反映されています。

カリキュラムパッケージの中心的な方法がミュージアムジャック

また、「主体的・ 対話的で深い学び」というフレーズは、聞いたことのない教育関係者はいないでしょう。平易な言葉に置き換えてみると、一人一人が関心に基づいた課題に積極的に取り組み、多様な経験をもつ方、年代の方との対話を通して課題解決に向けて繰り返し学ぶことが重要だということです。そこで（社会教育と学校教育融合型の ESD を主眼とした）カリキュラムパッケ―ジを開発するに至りました。

その中心的な方法としてミュージアムジャックがあります。

ミュージアムジャックの特徴は、「リアルごっこ遊び」

ミュージアムジャックとは、社会教育と学校教育が連携し、おとなも子どもも持続可能な社会の構築をめざし行う教育活動。 子どもの遊び心をくすぐり探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」がその特徴です。本物のミュージアムでガイドやスタッフの仕事を行う職場体験プログラムです。

カリキュラムの拡張性、可能性とともに、今後の社会教育と学校教育の可能性について探りたい

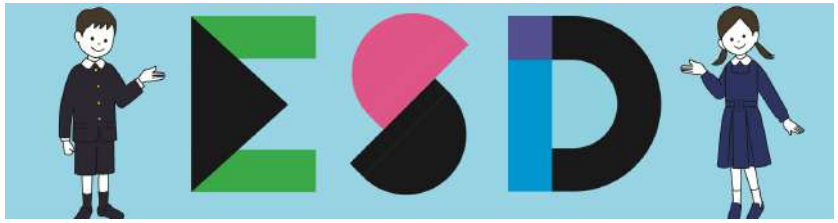
今回のフォーラムでは､「本事業で進められたフレームワーク的なカリキュラムパッケージの開発と実践は、今後に他者による展開・発展の余白を意図的に残すとともに、このフレームが ESD の新たな取り組みへのチェックシートにもなりうるものとなっている」といった評価委員の評価、実践報告に基づくラウンドテーブルでは、 点から線、 そして面へ 「つながり」 関連性を可視化でき、 教師自身が思考のプロセスを整理し、省察することが可能である成果が複数の参加者から語られていました。今年度は、休憩中にビデオをご覧いただきましたが京都市などにも広がりをみせています。

本フォーラムでは、カリキュラムの拡張性、可能性とともに、今後の社会教育と学校教育の可能性についてもみなさんと一緒に考えていきたいと思います。以上です。

柿島安博

続いて、実践報告をお願いいたします。

最初に、明治学園小学校教諭 諸藤大揮様、お願いいたします。



ESDフォーラムミュージアムジャック2025

社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発
趣旨説明

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムプロジェクトリーダー
田宮　縁

1.背景

本事業では、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、社会教育と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、発信すること、また、多様なステークホルダーとのネットワーク構築をねらっています。

2023年度・2024年度文部科学省ユネスコ活動費補助金

学習指導要領 前文

持続可能な社会の担い手の育成

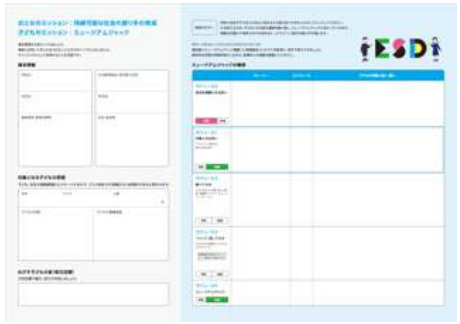
○カリキュラムマネジメント
○地域に開かれた教育課程
○学校種間の接続

主体的・対話的で深い学び

ミュージアムジャックとは

○社会教育と学校教育が連携し、おとなも子どもも持続可能な社会の構築をめざし行う教育活動
○子どもの遊び心をくすぐり探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」がその特徴
○本物のミュージアムでガイドやスタッフの仕事を行う職場体験プログラム

カリキュラムパッケージの評価（ESDフォーラム報告書より）



【評価委員】
○フレームワーク的なカリキュラムパッケージの開発と実践は、今後に他者による展開・発展の余白を意図的に残す
○フレームがESDの新たな取り組みへのチェックシートにもなりうる

【実践者】
○点から線、そして面へ「つながり」関連性を可視化
○教師自身が思考のプロセスを整理し、省察することが可能に

各地への拡がり

本フォーラムでは、カリキュラムの拡張性、可能性とともに、
今後の社会教育と学校教育の可能性を探る。

【実践報告 1】

明治学園小学校×タカミヤ環境ミュージアム

諸藤大揮（明治学園小学校教諭）

本校では、4 年生がタカミヤ環境ミュージアムで「環境ミュージアムジャック」に取り組んでいる

皆さんこんにちは。明治学園小学校の諸藤です。実践報告をさせていただきます。

対象学年は 4 年生で、テーマは「環境問題の取り組み」をテーマとしております。こちらのタカミヤ環境ミュージアムの方で、実際にお客様にガイドをしたり、職場体験などをして学習をします。その活動全体を、本校では環境ミュージアムジャックと呼んでおります。本校では、本校の教育理念は人々のための人にという教育理念から、このような。総合的な学習の時間の目標を設定し、本単元で目指す子どもの姿として、環境問題に関心を持ち、自分にできることを考えることができる子どもの姿を目指して活動しております。

フレーム内のそれぞれの活動は、小単元。ここでは、モジュールと呼ぶ

先ほど、田宮さんからもご紹介がありましたが、こちらのミュージアムジャックのアウトラインに沿って、学校と地域社会教育施設が連携をして、このフレームワークを活用して活動を行っています。まず前半部分ですが、まず前半部分のこの課題を持つためのきっかけの流れまでの流れを説明していきたいと思います。

大きく分けて，このそれぞれの活動のことを小単元と呼んだり、この発表ではモジュールというふうに呼ばせていただきます。

入り口は社会科の環境学習。社会科見学、花王の環境プログラムなどの体験からの学びだった

まず、社会科の環境学習が入り口となりました。1 学期に缶ビン資源化センターだったり、浄水場への社会科見学などを通して、北九州市の環境への取り組みを実際に子どもたちと一緒に見て体験して学びました。そして、花王の環境プログラム「ごみゼロチャレンジ」をそれぞれの子どもで、各家庭で取り組みました。この「ごみゼロチャレンジ」というのは、実際に自分のおうちでどれだけのごみが出ているか、そういうのを調べて、そして得点化し、今出ているごみの量をできるだけ減らしていこうという活動をクラスで共有してやっています。活動は 2 回行いまして、一番最初がこの 3，067 点というのが一番最初の得点です。この得点をベースに、できるだけごみの数を減らした分だけこの点数が上がるというそういう活動になっています。

関さんから「ミュージアムジャック」という秘密のミッションが出される

そして環境ミュージアムにも見学に行って、環境ミュージアムの関さんから秘密の指令ということで環境ミュージアムのジャックという指令が子どもたちに出されます。

今年度は「46 億年地球の道」をテーマとした出前講座をモジュール 1 に追加した

そして今年度からの取り組みですけど、地球の 46 億年の道という，出前授業を今年はしていただきました。ここでは地球の成り立ちであったり、例えば地球が 1 メートルだとすると、地球は何センチですかとか、あとは地球が 46 億年の中で人間が生まれたのは大体これぐらいで、そしてそこから地球環境が破壊されてい

くというような実体験を通して、地球のことだったり、環境問題に子どもたちが触れる学びというふうになりました。

モジュール２では、イメージマップを今年度は活用。それぞれの問いをクラスで共有し、関心を具体化

そして、夏休みにそれぞれ関心のある課題を調べてくるという宿題を出して、そしてその後に調べたことを、友達と同じ班の人とクラスと共有をする活動を取り入れます。

今年度の工夫の一つ目ですけど、子どもたちの課題設定の場面でイメージマップを活用しました。これは、今どんな環境問題があるかという問いに対する知識の共有をまずクラスで行いました。そして、次の問いとして、私たちにどんなことができるかという という問いを立て、次第に子供たちの環境への関心が具体化していきました。

今年度はガイドの際にタブレット以外の方法を考える。表現方法の広がりへ

そして、それぞれのテーマについて調べる中で、どのような方法を取れば、ガイドをしたときにお客様にメッセージが届くのかということを考えていきました。そして、今年度の工夫の２番目として、表現方法、ガイドの際にタブレット以外の方法を考えるという、今年のそういうふうに教師の方から呼びかけました。昨年度のガイドを見ていて、タブレットを使ったガイドが非常に多かったので、今年はその表現の広がりを出したいという思いから、このような工夫を取り入れました。そして、実際に様々な表現方法を試行錯誤している場面です。それで、環境を良くするためにできることとして、問いを立ててですね、この表現が徐々にこのように広がっていきました。

表現方法の広がりだけでなく、興味や関心も広がる。モジュール０での学習と関連づけて考える姿も

そして、子どもたちの興味関心も広がっていくのですが、このオレンジ色のグループは、最初は地球温暖化について調べているグループでした。その地球温暖化を調べていくと、 CO2 の排出のほうに興味がいき、そしてそこから公害に広がっていきます。そしてその公害をまた調べていくと空の公害、そして海の公害というふうに興味関心がどんどん広がっていく姿が見られました。またピンク色のグループは，水不足、節水についてテーマを掲げたグループなんですけど、そこのグループは、最終的にはろ過装置を作ろうという活動に広がりました。この水不足のきっかけとなったのは、 １学期の浄水場の見学でした。

モジュール３、逆偵察での専門家からのアドバイスは子どもの心に響いた

この時点で子どもたちの興味関心が具体化したところで、実際に本番に向けての活動に入っていきます。実際にガイドの準備を進めていくのですが、ここで １１ 月に環境ミュージアムの方が実際に学校に来ていただいて、内容や表現方法に関するアドバイスをしていただく場を設けました。これを本校では「ミュージアムジャックの逆偵察」というふうに呼んでいます。実際に子どもたちも専門家からの意見ということで、日頃よりも素直に受け入れている様子が見られました。実際の本番を迎えます。

モジュール４、今年度のミュージアムジャックはでは多様な表現でガイドする子どもたちの姿があった

実際の本番の場面です。今年度ですね、このような表現方法の活動の表現方法の広がりが見られました。フードロスレシピだったり、輪投げ、紙芝居、工作、濾過装置、楽器の演奏、環境ムービーを流したり、カー

ドゲームをしたりというような広がりが見られました。今年度は竹内市長にも来ていただいて、ガイドの様子を見ていただきました。

ミュージアムジャックを通して、子どもの生活に変化があった～持続可能な社会の創り手の第一歩

児童の振り返りです。これまでの活動の中で心に残った活動としての内訳になります。具体的な感想としては、知らないことがあって勉強になったとか、ガイドが発表できたとか、たくさんの人に喜んでもらえたなどの感想が非常に多かったです。では、実際にその前後で生活に変化があったかというのがこちらの内訳になります。具体例です。実際に買い物のシーンであったり、あとはゴミを捨てる場面であったり、実際の生活、電気とか水とかのそういう実生活におけるその変化がやはり多かったかなと思います。

課題設定のプロセスの改善（イメージマップの活用）が成果、環境問題との出会わせ方が今後の課題

成果と気づきになります。成果としては、課題設定のプロセスの改善ができた。イメージマップを使うことによって、子どもたちの課題に持っている知識を共有できたし、視覚化できたので、そこは良かったのかなと。また、表現方法の広がりも見られたのかなというふうに思います。環境問題に関する関心の向上であったり、プレゼンテーション能力の向上も見られたかなと思います。課題としては、やはり環境問題との出会わせ方については、今後検討が必要なのかなと。また、ガイドの方向についても、さらにいろんな多様なガイドを子どもたちから引き出していきたいなというふうに考えています。では、以上で実践報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

柿島安博

諸藤様、ありがとうございました。

続いて、伊豆の国市立大仁北小学校校長 福井孝子様、お願いいたします。

明治学園小学校　発表者　諸藤　大揮

1

4年「環境問題への取り組み」

「環境ミュージアム」での
ガイド体験

2

本校の教育理念

人々のための人に

↓

本校の総合的な学習の時間の目標

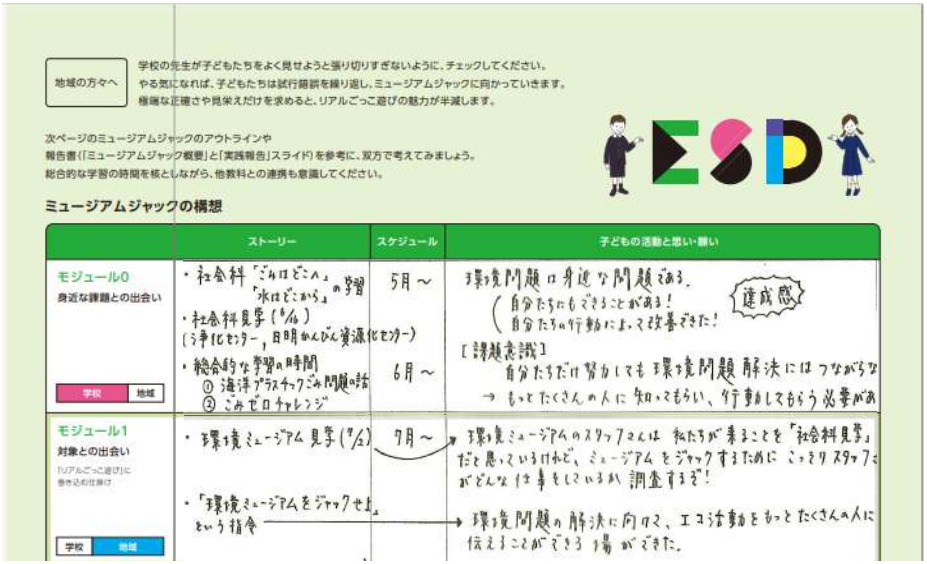
自ら課題を見つけ、調べて得た情報をもとに多面的に考え、友達と協力しながら解決できるようにするとともに、より良い生活を創り出したり、自己の生き方を考えようとしたりする。

↓

本単元で目指す子どもの姿

環境問題に関心をもち、自分にできることを考え、行動できる子ども

3



地域の方々へ

学校の先生が子どもたちをよく見せようと張り切りすぎないように、チェックしてください。
やる気になれば、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、ミュージアムジャックに向かっていきます。
様々な正確さや見栄えだけを求めると、リアルごっこ遊びの魅力が半減します。

次ページのミュージアムジャックのアウトラインや
報告書(「ミュージアムジャック概要」と「実践報告」スライド)を参考に、双方で考えてみましょう。
総合的な学習の時間を核としながら、他教科との連携も意識してください。

ESD

ミュージアムジャックの構想

	ストーリー	スケジュール	子どもの活動と思い・願い
モジュール0 身近な課題との出会い 学校 地域	・社会科「ごみはどこへ」「水はどこから」の学習 ・社会科見学(5/6) (浄化センター，日明かんびん資源化センター) ・総合的な学習の時間 ① 海洋プラスチックごみ問題の話 ② ごみゼロチャレンジ	5月～ 6月～	環境問題は身近な問題である。 (自分たちにもできることがある！ 自分たちの行動によって改善できた！ 達成感 [課題意識] 自分たちだけ努力しても環境問題解決にはつながらな → もっとたくさんの人に知ってもらい、行動してもらう必要があ
モジュール1 対象との出会い (リアルごっこ遊びに巻き込む仕掛け) 学校 地域	・環境ミュージアム見学(9/2) ・「環境ミュージアムをジャックせよ」という指令	9月～	環境ミュージアムのスタッフさんは私たちが普通のことを「社会科見学」だと思っているけれど、ミュージアムをジャックするために こっそりスタッフさがどんな仕事をしているか調査するぞ！ → 環境問題の解決に向けて、エコ活動をもっとたくさんの人に伝えることができる場ができた。

4

モジュール４
ミュージアムジャック

モジュール３
作って試してみる

モジュール２
調べてみる

モジュール１
対象との出会い

モジュール０
身近な課題との出会い

本番

探求的活動

課題を持つための
きっかけ

【モジュールⅠ】
課題設定

【モジュールⅠ】
調べ学習・情報共有

【モジュールⅠ】
環境ミュージアム見学
「環境ミュージアムをジャックせよ！」

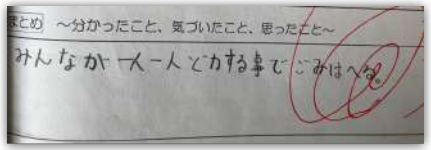
【モジュール０】
社会科見学・ごみゼロチャレンジ
地球の道ガイド
「自分たちにもできそうだ！」

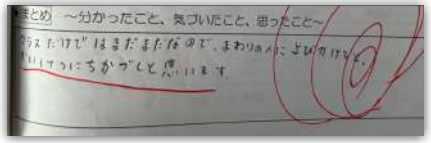
モジュール０

【１学期】
〇缶ビン資源化センター・浄水場への
　社会科見学、環境センターの出前授業等

モジュール０

〇ごみゼロチャレンジ
※花王（株）環境プログラム

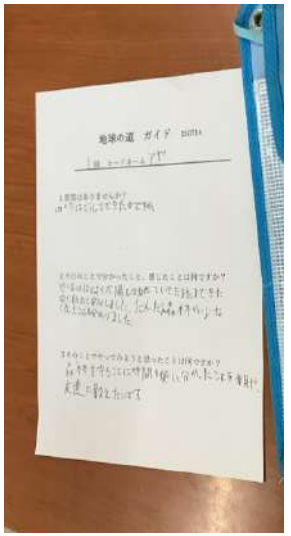




環境ミュージアム見学

モジュールⅠ

9



10

モジュールⅠ

ミュージアムジャックで
たくさんの人に環境問題について
知ってもらって取り組んでもらいたい！

11

調べ学習・情報共有

モジュールⅠ

12

今年度の工夫Ⅰ

課題設定の場面で
イメージマップを活用する

モジュールⅠ

今、どんな環境問題があるか

知識の共有

モジュールⅠ

私たちにどんなことができるか？

○テーマ決定

地球温暖化　　ごみ　　気候変動　　フードロス　　水不足

３Ｒ

モジュール２

テーマについて調べる

どのような方法で伝えたら、メッセージが届くか？

今年度の工夫２

表現方法については
タブレット以外の方法を考える

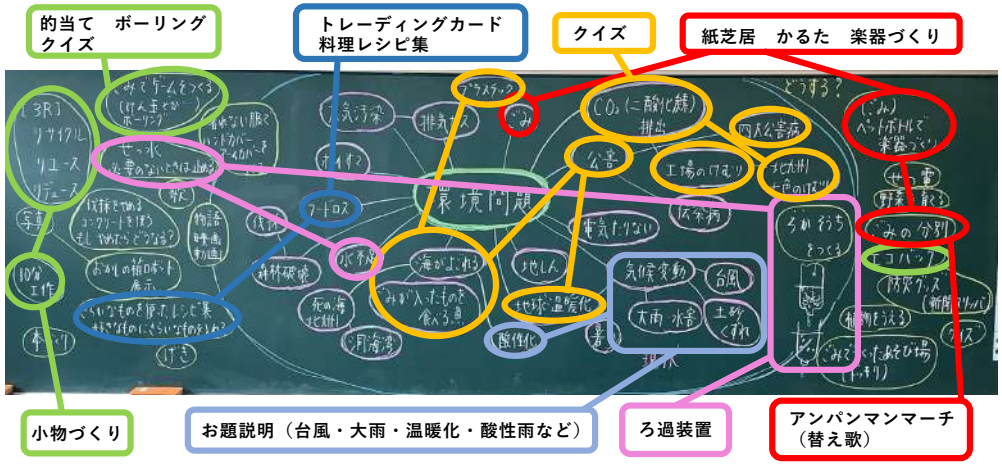
※環境ミュージアム全体を通して
お客様に楽しく伝える

17

さまざまな表現方法を試行錯誤

18

環境をよくするためにできること？



19

ミュージアムジャックに向けて準備をがんばるぞ！

20

【モジュール４】
ミュージアムジャック

【モジュール３】
ガイド練習・リハーサル

【モジュール３】
逆偵察（ゲストティーチャー来校）
「内容をもっとまとめよう！」

【モジュール２】
調べ学習・発表練習
「準備をがんばるぞ！」

モジュール２

ガイドの準備を進める

モジュール３

１１月　環境ミュージアムの逆偵察

内容や表現方法に関するアドバイス

モジュール３

１１月　環境ミュージアムの逆偵察

内容や表現方法に関するアドバイス

１月　環境ミュージアムジャック本番　モジュール４

１月　環境ミュージアムジャック本番

フードロスレシピ

輪投げ

紙芝居

エコ工作

１月　環境ミュージアムジャック本番

ろ過装置

楽器演奏

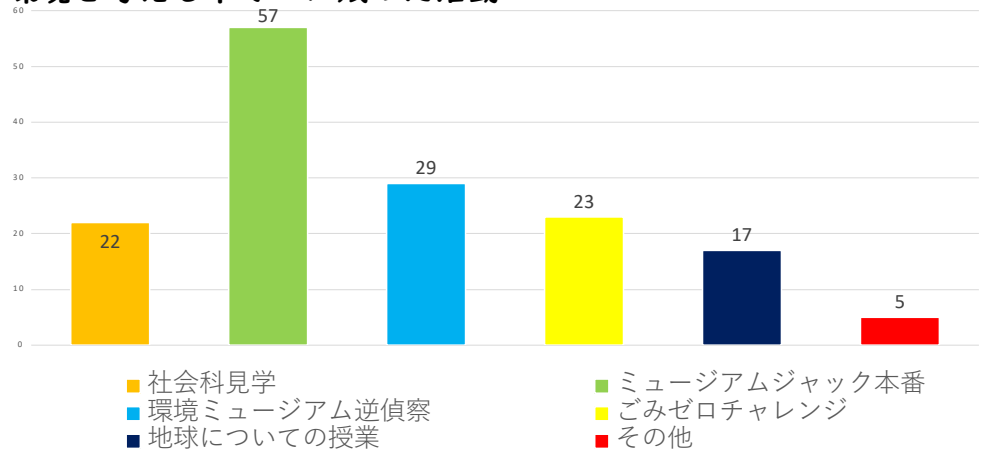
環境ムービー

カードゲーム

ミュージアムジャック本番

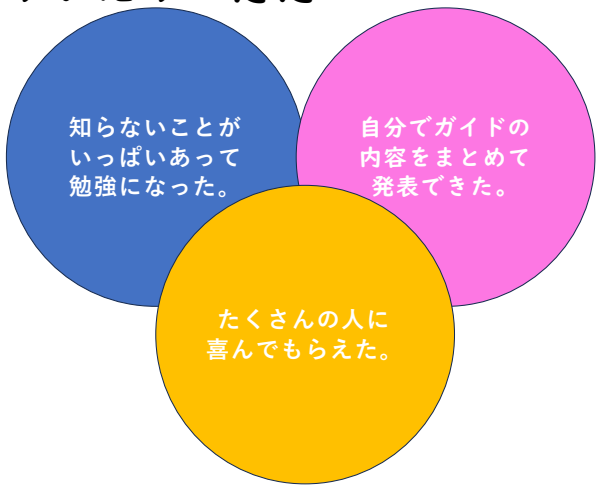
児童のふりかえり

環境を考える中で心に残った活動



29

児童のふりかえり・感想

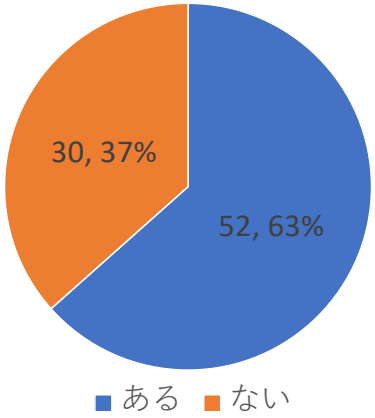


30

児童のふりかえり

ミュージアムジャック前後であなたの生活に変化はありましたか。

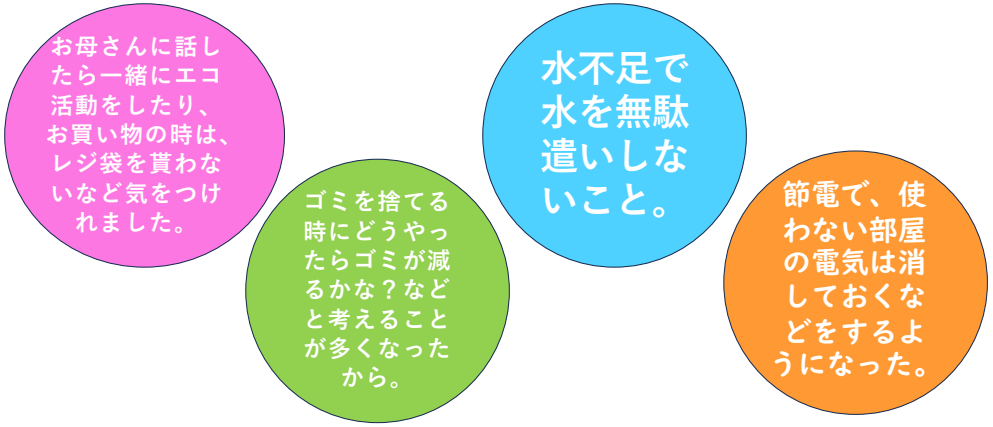
ある・なし



31

児童のふりかえり

「ある」と答えた人は具体的に教えてください。



32

成果と気づき

①課題設定のプロセスの改善
　イメージマップの活用
②表現方法の広がり

③環境問題に対する関心の向上。
④プレゼンテーション能力の向上。

課題（昨年度）

①環境問題との出会わせ方

②ガイドの方法について

課題

①環境問題との出会わせ方
　（課題意識）

②ガイドの方法について

ご清聴、ありがとうございました

【実践報告 2】

伊豆の国市立大仁北小学校×伊豆半島ジオパークミュージアム

福井孝子（伊豆の国市立大仁北小学校校長）

伊豆の国市は 2 つの世界遺産が見える街～韮山反射炉は日本の産業革命遺産、北九州市とも縁がある

皆さんこんにちは。静岡県伊豆の国市立大仁北小学校の校長の福井でございます。私からは伊豆半島ジオパークミュージアムジオリアでのミュージアムジャックについて報告させていただきます。まず本市、伊豆の国市を少し紹介させてください。静岡県東部、伊豆半島の付け根に位置しております。本市は 2 つの世界遺産が見える街として PR しています。1 つは富士山です。もう 1 つは韮山反射炉です。これは明治、日本の産業革命遺産を構成する施設の 1 つとなっておりますので、こちら北九州市ともご縁があるかと思います。ユネスコ世界ジオパークにも認定されております。

本校は、地域の力を借りて地域学習は盛ん

さて、本校ですけれど、全校児童数は 213 人、 10 学級です。大きくない学校なんですが、学校運営協議会と地域学校協働本部がしっかり両輪で働いて機能しておりまして、地域の力を借りて、地域学習が盛んに行われているところが特色であります。

ミュージアムジャックのカリキュラムの紹介～本報告では子どもの思いの変容を中心に話す

ミュージックジャックのカリキュラムは、 5 年生の総合的な学習の時間に昨年度から取り入れさせていただいています。カリキュラムの内容はこのようになっております。ミュージアムジャックに取り組んだ子どもたちの思いの変容を中心にお話しさせていただきます。

モジュール 0 出前講座やフィールドワークを通して地域の魅力や嬉しさを感じている子が多かったが、身近な地域の抱える災害への危険性も認識している子もいた

まず、モジュールゼロ、身近な課題との出会いのところでは、子どもたちは、ジオの出前講座やフィールドワークを通して、ジオサイトへの興味関心を高め、今後の学習に期待を比べるとともに、身近な地域に新たな魅力があるということを知って、嬉しさを感じている子が多かったと思います。しかし、中には「富士山が復活したらどうしよう」「嫌だなぁ」というように、身近な地域が抱える危険性も新たに認識して、不安を覚える子もいました。

モジュール 1～3 ジオリアへの偵察～探究活動～文化祭での逆偵察

モジュール 1 対象との出会いでは、ジオリアを偵察したのですけれど、最終的にここでミュージアムジャックをするという目的を子どもたち一人一人が十分意識していて、展示の仕方であったり、スタッフの動きなど、展示物の内容もそうなんですが、そういうところもよく観察して、ミュージアムジャックへの具体的な見通しとか期待感を高めていました。それから、ガイディングに向けて個々の探究活動を行い、学校の文化祭のような児童会行事で発表しました。この文化祭での発表がリハーサル的な役割を果たして、いよいよミ

ュージアムジャックを行ったわけですが、子どもたちからはこういうお客さんがリアルこういう。

リアルごっこを通して、達成感を覚えた子どもたち、新たな探究活動に向けての課題意識も芽生える

リアルごっこを通して、お客さんが褒めてくれて嬉しいとか、練習してきたことが、ここでうまくいってよかったとか、調べたことをお客さんがわかってくれていい気持ちになったなど、達成感や満足感を覚えた子が一番多かったです。その他にも、接客するって楽しいっていう、そんな感想を持つ子もいて、職業への興味関心を高めていました。また、「この地域にはまだまだ知らないことがたくさんあるんじゃないか」「もっと知ってみたい」など、次の探究活動に向かって課題意識を芽生えた子もいました。

子どもの持つ課題意識を６年生の総合的な学習の時間につなげる～カリキュラムの見直し

そこで、子どもたちが持った次への課題意識をつなげていくために、本年度は６年生の総合的な学習の時間のカリキュラムを見直しました。今までは６年生は市内の歴史を学ぶことが中心だったのですが、それに加えて、ジオパークの魅力を広く発信するため、パンフレットを作って、旅館や観光協会に置いたり、修学旅行で東京を訪れたんですが、その上野公園で実際の観光客に配ったり、それから同じ世界ジオパークに認定されている他県の小学校と交流したいという活動を取り入れました。パンフレット配りでは、ミュージアムジャックで本当にリアルなお客さんに接していたという活動が活かされていたんじゃないかなというふうに思っています。

保護者に向けて「持続可能な地域社会の創り手となるために」というテーマでの発表会を設定

そして、これらの活動を通して最後には、これまでの学習を踏まえて、「持続可能な地域社会の創り手となるために」と題して、自分たちの意見をまとめ、これは参観日なんですけど、保護者に向けて発表しました。

学びと学びをつなげる子どもの姿～歴史とジオの関連性。地球の歴史、人の歴史を大切にしたい

これは、あるグループの発表の骨子です。このグループは、まず５年の時のジオ学習で、ジオが私たちの生活に大きく関わっていることがわかったと感じています。そして、６年生の歴史学習では、反射炉の土台が伊豆石だった、歴史とジオに関連があることを知ったということで、学びと学びをつなげています。さらに、修学旅行のパンフレット配りで、お客さんから「伊豆に興味を持ったよ」とか「伊豆半島を大切にしてください」などとの感想をもらうと、自分たちの思い、願いとして，改めて伊豆の国市の自然であるジオ、ジオと関連している歴史を守っていかなくてはならないなという、そういうような思いを強くしていました。

ジオパークのある他県の小学校との交流から環境問題、環境産業へ発展

さらに、他県の小学校との交流で、その他県の小学校でも、ジオが自分たちの生活にとても密着しているっていうところを知って、こういうような自然が壊されてしまったら、人々の生活はどうなるんだろう、困るんじゃないかということで、最終的には環境問題への取り組みの意識を高めるということにこのグループは向かっていったわけですが、環境問題だけではなく、例えば市の環境産業の発展とかっていうところに次の課題意識を持っていたグループもありました。

持続可能な地域社会の創り手が自分たちであるということの自覚の芽生えを感じられた

最後にまとめなんですけれども、ミュージアムジャックとその後の活動を通して、子どもたちはふるさとの魅力を再発見したり、働くことへの興味・関心を持ったり、それから自分たちの生活にこれまで学んできたことが関わっているんだなという実感を強めたり、そして持続可能な地域社会の創り手が自分たちであるということの自覚の芽生えみたいなものは、感じられたと思います。

一人ひとりの子どもの思いや願いを次の探究につなげる教師、学校種間の接続

この子どもたちの思いというのは、内容的に言うと、とても広いですね。広い考え方や様々な思いがあります。こういう子どもたち一人ひとりの思いや願いを次の探究活動につなげていくためには、やはり教師側の一層の工夫が必要であるなというふうに考えています。その一つが、小学校と中学校の連携の強化というのもありじゃない、考えられると思っています。冒頭で子どもたちの一人が、富士山が噴火したらどうしよう、嫌だっていう願いを持ったんですが、結局この思いというのは防災教育に発展するんですが、本校の小学校では、あんまり防災教育のところに、この子はその後、研究課題を持っていかなかったんですね。でも中学校では防災教育をきっちり取り組む学年が本市の場合はあります。こういうことで小中のつながりっていうものもすごく大切にしながら子どもの思いをつなげる、そういう総合学習にしたいなと思います。それにミュージアムジャックはとても効果的であると感じます。

以上、簡単ですが報告を終わります。ありがとうございました。

柿島安博

福井様、ありがとうございました。

最後に、静岡市立登呂博物館が学芸員、松原草太さん、お願いいたします。

本日、岡村様は科研費に関わる調査で海外に出張されております。

ミュージアムジャック実践報告

静岡県伊豆の国市立大仁北小学校

×

伊豆半島ジオパークミュージアム ジオリア

大仁北小学校　校長　福井孝子

1

伊豆の国市

静岡県、伊豆半島の付根に位置し、人口は約４．４万人。観光業が主要産業。市内には世界遺産と世界ジオパークの認定をもらっている場所がある。

世界遺産
明治日本の産業革命遺産
韮山反射炉

ユネスコ世界ジオパーク
伊豆半島ジオパーク

2

2

大仁北小学校

創立４２年目、全校児童数は２１３人の中規模校。平成３０年に発足した地域学校協働本部と令和５年に設置された学校運営協議会が両輪で機能し、地域の「人・物・こと」に関わる教育活動を推進している。

３年生
特産の「田中山スイカ」栽培

６年生
韮山史跡巡り

全校
地域の先生による放課後学習教室

3

3

５年生 ミュージアムジャック IN ジオリア (R6～)

<ねらい>
○ジオ探究
　伊豆半島の成り立ち、自然の恩恵を調べる・伝える
○ジョブ体験
　仕事の役割を知る・やってみる

ジオリア（伊豆半島ジオパークミュージアム）
伊豆の国市に隣接する伊豆市にある施設。豊富な資料や分かりやすい展示を通して、地質の視点から伊豆半島が現在の姿になるまでの歴史を学ぶことができる。

4

4

5年総合学習「ミュージアムジャック」カリキュラム

モジュール	内　　容
モジュール0（5月～9月） 身近な課題との出会い	○ジオパーク認定ガイドによるジオ出前講座 ・伊豆半島誕生の歴史、コーラを使った噴火実験　等 ○身近なジオサイトのフィールドワーク① ・鮎壺の滝（富士山噴火の溶岩流によって作られた滝） ・割狐塚稲荷神社（溶岩塚の上に建てられた神社）　　等 ○身近なジオサイトのフィールドワーク② ・白鳥山（柱状節理が大規模に見られる山） ・城山（地下にあるマグマの通り道が隆起して現れた山）等
モジュール1（9月） 対象との出会い	○ジオリアの見学 ・展示品を見る。体験コーナーで実物に触れる。 ・スタッフの仕事を知る。 ・お客さんを引き付ける工夫を探す。
モジュール2（10月～12月） 調べる	○ジオパークについて、ガイドしたい内容を考える。 ・フィールドワークして学んだジオサイトについて伝えたい。 ・火山の噴火や海底の隆起について伝えたい。 ○どんな方法でガイディングするか考える。 ・実験　・動画　・スライド　・クイズ　等
モジュール3（1月） やってみる	○北っ子集会（学校の文化祭）でジオパークについてガイディング ○ガイディングの見直しと修正
モジュール4（2月） ミュージアムジャック	○ジオリアにてジオパークについてガイディング ○ジオリアのスタッフとして職場体験

5

5

子供の思いの変容

モジュール0　身近な課題との出会い

【ジオ出前講座】

【フィールドワーク】

・伊豆半島が世界ジオパークだって初めて知った。ジオサイトの見学が楽しみ。
・自分が住んでいる所は昔海底だった。びっくり。
・噴火実験おもしろい。自分でもできそうだ。
・コーラだからいいけど本当のマグマだったら怖い。富士山、一生噴火しないで。

・柱状節理っておもしろい形
・身近な地域にこんなところがあるなんて知らなかった。
・お客さんはあんまりいないな。みんな知らないのかな。

身近な地域の魅力を発見

今後の学習への関心

6

6

子供の思いの変容

モジュール1　対象との出会い

【ジオリア見学】

・動画やプロジェクションマッピングはお客さんの興味をひくな。
・大事なことは目につくところに大きく展示してある。
・触ったり、実験できると楽しいな。
・スタッフは楽しく学べるように丁寧に説明しているな。
・虫眼鏡とか顕微鏡があるとよく分かるな。

ミュージアムジャックへの見通し・期待感

7

7

子供の思いの変容

モジュール4　ミュージアムジャック

達成感・満足感

・うまくできるか心配だったけど、めっちゃよくできたし楽しかった。
・北っ子集会で直したいところがあったのでこのジャックで直せてよかった。
・お客さんが「よかった」「すごいね」といってくれたのがうれしかった。これまでいっぱい準備してきてよかった。

職業への興味関心

・職場体験でいろいろな仕事ができてうれしかった。
・案内をして、接客が楽しいことが分かった。
・スタッフとして忙しかった。いつも働いているスタッフの方はすごいと思った。
・事務の仕事でホワイトボードに案内を書くことが難しかった。ちらしを頼りに完成させた。

次の課題発見

・この地域には、まだまだ知らない秘密が隠れているんじゃないかと思った。いろいろなところで祭りなどが開催されていたり、知らない活動があったりとまだまだ知るべきことについてしっかり注目していきたいなと思った。

8

8

６年総合学習「持続可能な社会の創り手になろう

学期	月	内容
1		世界遺産のあるまち　伊豆の国市について学ぼう
	4 5	・ふるさと伊豆の国市ついて、どのように考えているのか考える。 ・江川英龍の業績や韮山反射炉、北条氏と源頼朝に関する史跡について講和を聞き、追究課題を決める。 ・史跡巡りを通して、追究課題について考えを深める。　文化財課の方の話を聞く
	6	・見学したり、話を聞いたりして学んだことをまとめる。 ・歴史あるまち伊豆の国市が持続可能なまちとなるために、どのような考えが必要なのか、これまでにまとめたこととともに、パンフレットに記述していく。
	7	・パンフレットを配布する。（長岡温泉）
2		伊豆半島ユネスコジオパークを発信しよう
	9	・伊豆半島ユネスコジオパークと何を組み合わせたら発信しやすいのかを考える。 ・発信するテーマを決め、追究する。 ・新潟県津南小学校　５年生と交流し、持続可能なジオパークについて学ぶ。
	10 11	・韮場山麓ジオパークと比較しながらSDGsの観点から見た伊豆の国市について考える。 ・修学旅行で、伊豆半島ユネスコジオパークを発信する。
	12	・伊豆半島ユネスコジオパークを、持続可能なものとするための考えをまとめる。
3	1	世界遺産やジオパークについて学んだことをもとに、持続可能な社会について考えをまとめよう ・世界遺産やジオパークを関連付けた持続可能な社会とは何か、考える。
	2	・追究し、考えを深めたことを津南小学校に伝える。
	3	・家族や地域の方に１年間の学びを発信する。　地域の方と学ぶ

６年生　活動の様子

市の魅力を発信するパンフレットを制作しました

修学旅行で観光客にパンフレットを配りました

ジオパークである新潟県津南小と意見交流

参観日に、２年間の総合の学習を踏まえ、持続可能な創り手となるための自分の意見を発表

６年生　「持続可能な創り手となるために」発表会

【Aグループ発表の骨子】

〈５年生のジオ学習〉
ジオのことについて調べ、ジオリアで、私たちが学習したことを来た人に発表した。そしてジオが私たちの生活に大きく関わっていることが分かった。

〈６年生の歴史学習〉
史跡巡りに行き、市内には鎌倉時代からの史跡が残っており、大事に守られてきたことを知った。反射炉の土台は伊豆石で、歴史とジオに関連があることも知った。

〈私たちの願い〉
伊豆の国市の人々が歴史もジオも大切にしてほしい。

〈修学旅行でのパンフレット配り〉
パンフレットをもらった人から「伊豆に興味をもった」「伊豆半島に行ってみたい」「伊豆半島を大切に守ってください」などの感想をもらった。

〈私たちの願い〉
改めて伊豆の国市の自然であるジオ、ジオと関連している歴史を守っていかなくてはならないと感じた。

〈津南小との交流〉
津南は、ジオを観光資源にしたり、河岸段丘による環境の違いを生かした花の栽培を進めている。
このような自然が壊されてしまったら人々の生活はどうなるだろう。

〈私たちの意見〉
・環境問題を減らすために多くの人がSDGｓのことを意識して、そのために何ができるか考える
・自分たちにできることを続けてやっていく。

まとめ

ミュージアムジャックとその後の活動を通して
子供たちは

・ふるさとの魅力を再発見
・働くことへの興味・関心
・自分たちの生活にこれまで学んだことが関わっていることの認識
・持続可能な地域社会の創り手は自分たちであることの自覚の芽生え

など、様々な考えや思いをもった。
これらの願いや思いを次の探究活動につなげていくためには教師側の一層の工夫が必要である。中学校との連携の強化もその一つと考える。

【実践報告 3】

ミュージアムジャック初年度の取り組み

松原草太（静岡市立登呂博物館学芸員）

博物館の視点からミュージアムジャックを紹介する

ただいまご紹介いただきました、静岡市立登呂博物館学芸員の松原草太と申します。本日よろしくお願いいたします。登呂博物館では、今年度よりミュージアムジャックの取組を開始いたしました。私のほうからは、博物館の視点が多くなりますけれども、取組についてご紹介させていただきます。

登呂遺跡は、日本で最初に見つかった弥生時代の水田ムラ。戦時中に発見、日本考古学発展のきっかけに。子どもたちにとっては、日常的な遊び場ともなっている

まず、登呂遺跡、登呂博物館の紹介をさせてください。今、スライドにありますのが、登呂遺跡、博物館、奥のですね、ベージュの建物が博物館です。登呂遺跡は、特別史跡登呂遺跡と指定されている弥生時代の遺跡です。現在、皆さんに見ていただいている写真でもあるように、発掘調査で見つかった場所の真上に土を盛って復元してということで、弥生時代の風景をそのまま復元するような形で遺跡を復元しておりまして、その隣に出土品である資料を保管展示している博物館がございます。登呂遺跡は、その弥生時代というような、日本で初めて弥生時代の水田ムラが見つかったこととともに、戦時中に遺跡が発見されまして、その後の発掘調査、日本考古博の発展のきっかけになったというところと、全国的にも先駆けて復元建物の整備、あるいは出土品を現地で見ることができるというようなことを実施したのも登呂博物館の特徴です。館内では出土品を展示するとともに、弥生時代の体験ができる体験展示室なども整備をしております。近くの小学校の地域の子たちからすると、日常の遊びの場として、この遺跡の部分は遮るもの、柵などございませんので、日常の遊び場としてもよく来てもらっています。

今年度は、2 校がミュージアムジャックを行った

登呂博物館では、今年度、静岡市立南部小学校「登呂博物館ジャック」と名付けた取り組みと「静大生による誌上ミュージアムジャック」、こちらはしずおか中部中枢都市圏の課題解決事業、課題としては「登呂博物館の可能性と拡張性を引き出すコンテンツの開発」の 2 つ実施をいたしました。

昨年度までは、事前の出前講座で、社会科見学の登呂遺跡の説明や見学の視点などが中心だった。子どもたちの様子からもっと知りたい、博物館で学びたいという思いを読み取り、ミュージアムジャックを紹介した

まず南部小学校の取り組みからご紹介いたします。きっかけとしましては、コロナ禍を明けて登呂遺跡に近い、1 キロも離れていない南部小学校、子どもの足でも 15 分ほどで行ける距離にあります。その立地を生かした連携をしていこうという中で、初めは学芸員が社会科見学へ来館される前に、学校で事前授業、事前の講座をした後で博物館、遺跡を訪れるというようなことをしたんですが、それが昨年度、令和 6 年度です。ただこの時には事前に説明を聞くことで、より何を見たらよいかという視点を定めることができたという評価をいただいたんですが、より知りたいこと、あるいは博物館に来てやってみたいことがあるようで、まだ

まだ見込みがあるだろうと、令和７年度、今年度の取り組みの相談の中で、登呂博物館と相談する中でミュージアムジャックの取り組みを紹介いたしました。として実施に至りました。

事前の出前講座では、縄文時代と比較する中で弥生時代を知ること。ミュージアムジャックがスタート

実施の流れとしてはこのような形となっております。まず前半部分は小学校 6 年生が今回対象になるんですけども、小学校６年生の歴史の時間、社会科というところで事前に出前講座をしました。そして縄文時代と比較する中で弥生時代について知ると。

社会見学に訪れた後で、そこから続いて総合的な学習の時間の中でですね、実際にテーマを決めて、調べ学習に入っていくような形で行っていただきました。その中で、自分がやりたい博物館のお仕事だとか、登呂遺跡の見学をしたときに興味を持ったことというというようなことを、実際に博物館で自分が説明をするならば、どのようなことをしたらよいのかということを一つのテーマとして調べる。そして、調べる中で分からないことを改めて博物館にインタビューに来ると。そして、その調べたことを自分たちでリーフレットにまとめて、学芸員だとか体験指導員になりきってミュージアムジャックを行うというような流れで実施いたしました。

モジュール０　事前講座では、本物の土器を触る体験から。モジュールⅠ　社会科見学では、復元水田の米を使った土器炊飯と試食

事前の講座のときには本物のですね、弥生土器の破片と縄文土器の破片に触ってもらうというようなことをして、まずは弥生時代について知る。そして社会科見学の中で博物館に来て、調べ学習を、博物館見学を行っていただきました。博物館に来たときには、登呂遺跡の場合、様々な体験、弥生体験メニューがあるんですけども、そのうちの一つ，土器炊飯ということで、弥生の土器で実際にご飯をどのように炊いているんだろうということを実験して、試食をするというようなことを行いました。このお米も、登呂遺跡の復元水田で育っている赤米とか黒米になります。

モジュール２　それぞれのテーマに基づいた再調査。専門家との対話の機会を創出～リーフレットを作成

実際にその後の総合的な学習の時間で博物館に来て、学芸員に話を聞いたりだとか。登呂博物館には、弥生体験のための屋内の体験指導員、屋外の体験指導員がいますので、その指導員にですね、話を聞いて自分たちで調べていく。こちらの写真は火起こしの実施をしている屋外体験指導員にやり方やコツを聞いたり、インタビューをしている様子です。

モジュール４　子どもたちは自分の好きなところでジャックしていた

実際にまとめたもの、このような形で、三つ折りのリーフレットにまとめて、来館者の方に説明をする。説明する場所は､特に博物館からは指定はしませんでしたので､入り口で博物館の館内を案内する子がいたり、これは登呂遺跡のジオラマの近くにですね、登呂遺跡の紹介をしていますけれども、あとは火起こし体験を実際にさせるんだということで、学芸員だけでなく体験指導員になりきる小学生もいました。取り組みとしては、地元の静岡新聞にも記事にしていただきました。

集客が今後の課題として残された

この実施をしたときには、なかなか博物館の方では集客がうまくいかず、地域の方とか保護者の方、あるいはクラスが2クラスありましたので、順番にお客さんの役になっていただいたんですけども、なかなか大勢の方に見ていただくことができませんでした。

子どもたちが作成したリーフレットは10月に館内で展示。地域のお祭りのおり、子どもたちがお客様を連れて再びガイドをしていた

博物館として10月に作成してもらったリーフレットを館内で展示し、あらためて紹介しました。すると、地域のお祭りがちょうど10月にあるものですから、子どもたちがあらためて来て、「このリーフレットで私がこれ作ったんだよ」とか、「友達がこれ作ったんだよ」、「ここで説明したんだよ」ということで、私たちのほうではなかなかできなかった自分たちでそこまでお友達とか家族を連れて行って説明をするというようなことをしていただけたので、よかったかなというふうに思っています。

「静大生による誌上ミュージアムジャック」のモジュール1は、フィールドワークで登呂遺跡を歩き、大きさや地形などを体感

2つ目として、「静大生による誌上ミュージアムジャック」についても少し説明をさせていただきます。こちらは主に田宮さんの方で流れを作っていただいていたんですけども、博物館としては、どんなところに興味を持っていただくか分からなかったので、いろんなところに興味を持っていただけるように、さまざま登呂遺跡の周辺を歩いて遺跡を説明するというようなことをしました。こんな形ですね、遺跡から出て周辺の地域も歩くというような形でフィールドワークを実施しました。実際、登呂遺跡は、今、遺跡として復元してある部分が2ヘクタールあるんですけども、それ以外に当時のムラとしては10ヘクタールぐらいあるというような、その広大な部分を実際に体感してもらうというような部分だとか、あるいはですね、弥生時代の水田が作られるに至った理由として、今でもこれ右下の写真は湧き水が，地域の方々が井戸水として使っている部分になるんですけども、そういったものも歩きながら知ってもらうというようなことをしました。

モジュール2 追究の過程では、再来館。学芸員、館長へのヒアリングなどもあった

そこから学生たちが調べる中で、追加で必要なことがあれば、あらためて来館してもらって、学芸員だとか館長から意見、コメントをしたりというような形で学びを深めていただきました。

モジュール3でESDフォーラムを実施。モジュール4は誌上で行った

途中でですね、このような形で発表をする中で、私たちの方からアドバイスをしたり、コメントをしたりというようなことをして、本日ですね、お配りしていると思いますけれども、このような形でまとめていただいたというような形になります。

簡単にはなりましたけれども、南部小学校の事例と静岡大学の事例、2つご紹介をさせていただきました。

柿島安博

松原さま、ありがとうございました。

それでは、続いて、ミュージアムジャックの調整と可能性について報告します。

ESDフォーラムミュージアムジャック

ミュージアムジャック
初年度の取り組み

令和８年３月７日（土）
登呂博物館学芸員 松原草太

登呂遺跡・登呂博物館
イメージキャラクター
「トロベー」

ESDフォーラムミュージアムジャック

【登呂遺跡・登呂博物館】
- S18の戦時中に弥生時代の水田跡発見
- 戦後S22～第２次発掘調査開始：日本考古学の契機に
- →全国に先駆けて、復元住居の整備、出土品の現地見学を実施

ESDフォーラムミュージアムジャック

【登呂遺跡・登呂博物館】
- S18の戦時中に弥生時代の水田跡発見
- 戦後S22～第２次発掘調査開始：日本考古学の契機に
- →全国に先駆けて、復元住居の整備、出土品の現地見学を実施

ESDフォーラムミュージアムジャック

【登呂博物館での取り組み】

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」
※しずおか中部中枢都市圏課題解決事業
「課題：登呂博物館の可能性と拡張性を引き出すコンテンツの開発」として実施

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【経緯】

R5：登呂遺跡に近い立地を生かした連携を検討

R6：学芸員による出前講座→社会科見学で来館

〈事前に学芸員の話を聞き、現地を訪れた〉

・・・目的をもって“たくさん知る”ことができた

★「もっと知りたい・もっとやってみたい」を実際に発揮する、調べて発表する形

←登呂博物館から「ミュージアムジャック」を紹介

（R6：明治学園小、大仁北小の事例を紹介）

5

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【令和7年度】

社会科

4月22日 登呂博物館×南部小 打合せ

5月22日 出前講座

（遺跡・博物館紹介、縄文土器片・弥生土器片を触って比べる）

5月28日 社会科見学

6月12・19・26日 校内

（テーマ決め・調べ学習）

総合的な学習の時間

7月2日 博物館にてインタビュー

（「自分がやりたい博物館のお仕事」・「登呂遺跡見学で自分が興味を持ったこと」→その仕事をするために必要なことを調べる）

7月16日 登呂博物館ジャック：発表

（自作リーフレットを使って学芸員・体験指導員になりきって解説・実演）

6

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【出前講座】

7

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【博物館見学】

8

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【土器炊飯】

9

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【土器炊飯】

10

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【インタビュー】

11

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【インタビュー】

12

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【インタビュー】

13

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【登呂博物館ジャック】

14

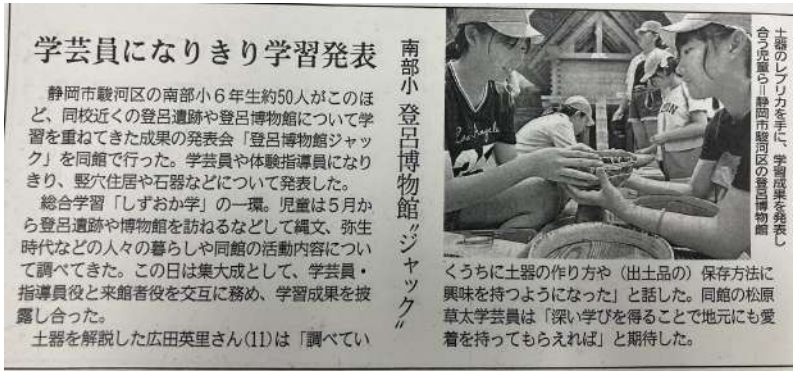
・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【登呂博物館ジャック】

15

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【２０２５年７月22日（水）静岡新聞記事】



学芸員になりきり学習発表

南部小 登呂博物館〝ジャック〟

静岡市駿河区の南部小６年生約50人がこのほど、同校近くの登呂遺跡や登呂博物館について学習を重ねてきた成果の発表会「登呂博物館ジャック」を同館で行った。学芸員や体験指導員になりきり、竪穴住居や石器などについて発表した。

総合学習「しずおか学」の一環。児童は５月から登呂遺跡や博物館を訪ねるなどして縄文、弥生時代などの人々の暮らしや同館の活動内容について調べてきた。この日は集大成として、学芸員・指導員役と来館者役を交互に務め、学習成果を披露し合った。

土器を解説した広田英里さん(11)は「調べてい

土器のレプリカを手に、学習成果を発表し合う児童ら＝静岡市駿河区の登呂博物館

くうちに土器の作り方や（出土品の）保存方法に興味を持つようになった」と話した。同館の松原草太学芸員は「深い学びを得ることで地元にも愛着を持ってもらえれば」と期待した。

16

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【館内展示（10月）】
登呂遺跡で開催される地域のまつりに合わせて成果物を展示
→保護者と一緒に再来館

17

・「静岡市立南部小学校 登呂博物館ジャック」

【館内展示（10月）】

18

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【フィールドワーク 2025年5月8日（木）】

- 学芸員とともに登呂遺跡と周辺を散策
  - ・地形、風景を感じる
  - ・隣接する鷹ノ道（たかのみち）遺跡
  - ・環境を想像する：井戸水-沖積地

★興味を持ってもらう
　なぜ？が発揮できるように幅広い情報を伝える

19

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【フィールドワーク 2025年5月8日（木）】

20

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【フィールドワーク 2025年5月8日（木）】

21

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【フィールドワーク 2025年5月8日（木）】

22

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【フィールドワーク
2025年5月8日（木）】

23

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【発表 2025年5月8日（木）】
「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」

- 発表する
  →意見・コメントをもらう＝深堀り
  →学びを深める（随時質疑に来館）
  →まとめる

★建物、材料、地質・環境、遺跡名、音・琴、戦時中の発見、教育、、、

24

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【発表 2025年5月8日（木）】

「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」

25

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【発表 2025年5月8日（木）】

「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」

26

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【発表 2025年5月8日（木）】

「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」

27

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【まとめ】

「 静大生による誌上ミュージアムジャック」

28

・「静大生による誌上ミュージアムジャック」

【まとめ】

「 静大生による誌上ミュージアムジャック」

【研究報告】

ミュージアムジャックの拡張性と可能性

田宮　縁

登呂博物館で行ったミュージアムジャックを対象に、カリキュラムパッケージを検証することを目的

ミュージアムジャックの拡張性と可能性について報告します。

本報告では、静岡大学教育学部社会教育主事資格取得に関する科目「生涯学習演習」において登呂博物館で行ったミュージアムジャックを対象に、カリキュラムパッケージを検証することを目的としています。特にですね、ここのところでは、機関の垣根を越えて教師が考えるツールとして有効だったか、カスタマイズ可能なカリキュラムパッケージとなっているかということについて検証していきたいと思います。

逆偵察に相当するモジュール３はクローズドでの ESD フォーラムを開催

授業の展開はこのような形(スライド参照)で展開させていただきました。目的内容手法はお読みください。モジュールシートに当てはめると、こちらのようになります。まずですね、モジュールⅠの登呂博物館でのフィールドワーク後、各自、あるいはグループでの探究が始まりました。何度も博物館に足を運んだり、ヒアリングをお願いしたりする学生たちもおりました。

逆偵察に相当するモジュール３に、クローズドでの ESD フォーラムを開催しました。

スライドⅠ枚、3 分のプレゼンの内容はこちらです。順序については、ストーリー性を持たせるため、教員が決めました。ESD コーディネーター３名はそれぞれに専門分野をお持ちの方々で鋭い質問をしていただきました。

モジュール４は、誌上でジャックする形をとりました。先ほど紹介にあったとおり、こちらの誌上で行いました。

発表についてなんですけど、どういうふうな形で発表したかというと、こちらです。こちらは、最初にプレゼンした学生のスライドです。

アンケートの紹介と分析手法の紹介

授業終了時に５つの視点から学生は振り返っています。分析手法は、テキストマイニング用いました。

対象への思いの変化～学ぶことで好きになっていく。いつのまにか巻き込まれていく

登呂遺跡、登呂博物館への思いの変化についてです。学ぶことで好きになっていくこと。「静岡市立図書館に行き書籍を調べるなど、積極的に行動している自分に驚いた」というように、何度も遺跡や博物館に足を運び、館長や松原さんにヒアリングを申し込んだりしていたようです。「登呂遺跡に愛情を感じた」と記述していた学生もいました。

ESD フォーラム～緊張感からおもしろさへ。専門家との対話で学びが深化

ESD フォーラムについては、授業も緊張感の中で進めてきましたが、フォーラムはかなり緊張していたよう

です。フォーラムでの対話は、「会話や話題はすごく面白かった」とあるように学びの深まりをもたらしていきました。

授業を重ねる中で、学生は自身の成長を感じていた

授業全体の感想についてです。授業を重ねる中で「自分のプレゼンがグレードアップしていくような感覚」を覚えたり、外部の方々に発表するという経験「『大学生』っぽくて楽しかった」と感じたり、小学生と同じなんですけど、自分の成長を大学生も授業を通して感じていたということもわかってきました。

考察１～学生の楽しさの内実は、単発の知識から文脈を読み取り、それぞれの関係性や時間軸などを統合し、登呂遺跡について単なる知識ではなく、全体がイメージできるようになるプロセス

最後に考察になりますが、モジュール３までの考察になります。モジュール０から３までの考察です。点から線、線から面、面から立体という３つのステップがあったように思います。単発の知識から文脈を読み取り、それぞれの関係性や時間軸などを統合し、登呂遺跡について単なる知識ではなく、全体がイメージできるようになるプロセスを学生たちは楽しんでいました。

考察２～限られた空間の中での自由感、ミュージアムジャックという装置により探究に巻き込まれていく

深い学びを可能にした背景には、ミュージアムという限られた空間の中での自由感、好きなことを深められること、ミュージアムジャックという装置があり、探究に巻き込まれていく、そして対象を深く知ることで好きになるという好循環が保証されていたように思われます。

考察３～教師は専門家である必要はない。「状況づくり」と「足場づくり」が教師の役目

その際、「私は考古学の専門家ではない」と学生に言い続けました。専門家は外部にいるからです。教師の役割は当たり前のことですが、状況づくりと足場づくりの２つです。きちんと授業を行なっていれば、モジュールシートの記入はそんなに困らないと思います。京都聖母小学校のモジュールシートをご覧いただければわかると思います。また、一人でできる段階から「足場をかけてあげること」で次の段階にいきます。私自身は学生の半歩前くらいを歩いていました。「本当にそうなの？」とか、「静岡の漆文化と検索してごらん」というような小さな足場を必要と思われる時期にしてきました。
モジュール４、学生の学びが社会に開かれる場です。ここからは柿島さんにお話しいただきます。

柿島安博

モジュール４は、社会に開かれたものにするために助成金を活用し、自分でつくるミニ絵本を作成

モジュール４のミュージアムジャックは誌上で行いました。社会に開かれたものにするために助成金を活用し、限られた予算の中で多くの方にお手に取っていただける形を模索しました。ハサミを入れていただくとミニ絵本になります。こちらは、ポスター展示で配布している「動物たちと一緒に地球の未来を考えよう」のスタイルを応用しました。

「当時の生活や文化」、「現代とのつながり」、「おどろき」を中心に構成を考え、追加調査をした

学生同士のプレゼンに対する他者評価では、「当時の生活や文化」、「現代とのつながり」、「おどろき」に関

する記述が多かったので、その点を取り入れながら、構成を考え、追加調査を加えました。
「静岡のものづくりは登呂遺跡にあった」を前面に出しました。地場産業である駿河漆器につながっているかもしれないからです。

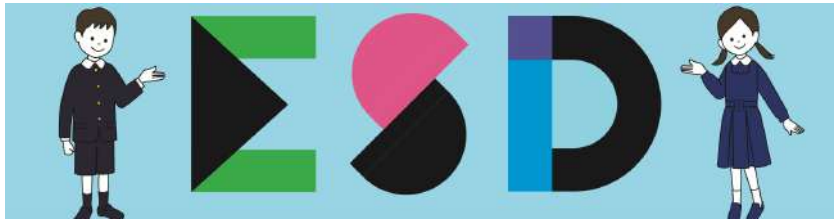
ESD フォーラムでの対話の中で得た知見を反映させた

こちらは、ミニ絵本の２ページにあたる部分ですが、ESD フォーラムでの学生のプレゼンから ESD コーディネーターも交えた対話の中で、岡村館長から「登呂のムラは、2700 年前ラグーンだった」という発言がありました。学生にとってみるとインパクトが強い事実だったと思います。このようにフォーラムで得た知見を反映していきました。

著者らの創造や追加調査も取り入れた

また、ネズミ返しについては船舶のラッドガードにつながっているかもしれないということは、筆者らが想像したことです。最後に、『登呂の子ども』は学生たちからは出てきませんでした、古い本で大学図書館の閉架に収蔵されておりました。こちらの実践は、ESD の学び方として重要なヒントが隠されていると思われたので、掲載することとしました。
以上で、報告を終了いたします。

柿島安博
それでは、ラウンドテーブルに入ります。ここからのファシリテートは田宮さんお願いいたします。



ESDフォーラムミュージアムジャック2025

ミュージアムジャックの拡張性と可能性

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム
田宮　縁・柿島安博

1.目的

『子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるためのカリキュラムパッケージミュージアムジャック』は、子どもや学校、地域の実態に応じたカスタマイズ可能なカリキュラムパッケージである。

本報告では、静岡大学教育学部社会教育主事資格取得に関する科目「生涯学習演習」で行ったミュージアムジャックを対象に、カリキュラムパッケージを検証することを目的とする。

・機関の垣根を超えて教師が考えるツールとして有効であったか

・カスタマイズ可能なカリキュラムパッケージとなっていたか

2.授業展開

ノットワークラボ活動報告612より閲覧可能　https://knotworklab.com/activity/2025/2519/

静岡大学教育学部社会教育主事資格取得に関する科目「生涯学習演習」

【授業の目標】実践を通して、持続可能な社会の構築をめざしたコミュニティ形成の一助となる社会教育における講座の企画・運営の手法を身につける。
【学習内容】「社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発」を軸に、ESDやESDフォーラムミュージアムジャック2024を学んだ上で、静岡市立登呂博物館を対象に「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」を行う。
【手法】PBL(Project Based Learning)問題解決型学習

ESDフォーラム「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」モジュール3
日時：2025年7月12日（土）13:30～16:00　場所：静岡市立登呂博物館

	ストーリー　（授業展開　木曜日1・2時限）
モジュール0	4/17ガイダンスESDとSDGs　4/24/・5/1ESDフォーラムミュージアムジャック2024
モジュール1	5/8登呂博物館フィールドワークガイダンス　5/813:00~16:00ガイドツアー
モジュール2	5/15「?」「！」の洗い出し　6/5・19・26進捗状況報告　7/3・10プレゼン準備
モジュール3	7/12ESDフォーラム　7/17振り返りと今後の進め方
モジュール4	（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック

プログラム

13:30　概要説明
13:35　プレゼンテーション　第1部（持ち時間：3分）
01現代の家の間取りは四角が基本、縄文弥生は円形が基本、、？
02高床式倉庫は地域と気候によって変わる!?
03登呂遺跡はスギが多スギる？！
04歩いてみないとわからない!? 登呂のヒミツ
05登呂と洪水の付き合い方。
06登呂遺跡ってどんなところ？？？
07登呂遺跡の人々は本当に「平和」に暮らせていたのだろうか。
14:00　ダイアローグ　ESDコーディネーターからの質問・コメント等
14:30　休憩
14:40　プレゼンテーション　第2部（持ち時間：3分）
08残された資料から戦時中の登呂の人々の想いについて考察する
09整がり、ともに歩む「登呂遺跡」と「子どもたち」
10日本の遺跡名にアルファベットが！？－違和感の謎に迫る－
11稲作とともに変化する土器
12貝塚ないんかい!?
13登呂遺跡は"お米をつくった場所"だけじゃない。"音をつくり、文化をつないだ場所"だった
15:00　ダイアローグ　ESDコーディネーターからの質問・コメント等
15:30　講評
15:50　終了予定

【講評】登呂博物館　岡村渉様、松原章太様
【ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムESDコーディネーター】
柿島安博様（中央動物総合専門学校顧問、日本平動物園園長）
和田精吾様（富士市教育研修センター指導主事　元富士第一小学校校長）
山田浩昭様（浜松学院大学教授　元静岡県立浜松特別支援学校校長）

付記

○令和７年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業~~（予定）~~
○静岡大学学長戦略運営経費「社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発」

ノットワークラボ活動報告612より閲覧可能　https://knotworklab.com/activity/2025/2519/　発表資料例

静岡大学教育学部社会教育主事資格取得に関する科目「生涯学習演習」

ESDフォーラム「（仮）静大生による誌上ミュージアムジャック」　プレゼンテーション

現代の家の間取りは四角が基本、縄文弥生は円形が基本、、？

概要

全国的に見て、縄文時代から弥生時代前半までは円形の間取りをした住居も存在しましたが、半数以上は円形住居だったそうです。しかしその理由について確定的なことはまだ分かっていないことが調べていく中でわかりました。ですが、考察については多くなされていたため、自分の考察も交える形になりますが、いくつか紹介したいと思います。
主には、・「建築の容易さ」・「雨風の避け性」・「効率面」・「空間の有効活用」・「宗教的、文化的要素」のうつだそうです。
円形の方が建造しやすいという利点はありますが、直接的な優劣ではないそうです。この中では「効率面」「宗教的・文化的要素」の２つに着目して説明していきたいと思います。まずは効率について。
円形は竪穴や掘立柱から出る熱を循環させやすいという利点があります。また、茅葺き屋根は、厚みがあり、空気を多く含むため、非常に高い断熱性を持っています。夏の暑い日差しを遮り、冬の冷気を防ぐ効果がありました。最後に宗教的、文化的要素について、昔の人は「円」をとても重視していました。詳しいことはわかっていませんが、住居の間取りだけでなく、貝塚や墓、縄文時代から使われていたストーンサークルなどが挙げられます。円は集団としての概念を高めるものとして重要視されていたようです。

資料1

弥生時代の遺跡

円形

資料2

現代の家の間取り

四角

資料3

弥生時代前期

弥生時代後期

円形だと側面全体を茅葺きで覆いやすい

文献・資料

・復元的視点による竪穴住居跡の発掘調査　（2004）　福島雅儀
・Q＆Aで読む弥生時代入門　（2024）　吉川真司
・知られざる弥生ライフ（2019）　藤田亜紀子
・ストーンサークルは、なぜ円い？　（2015）　小林達雄
・環状列石とは何か？　（2021）　瀬田宏
・市原市教育委員会（2022）『市原市中台遺跡』：後期～古墳期への平面変化の詳細分析
・佐賀県庁考古資料（2019）「竪穴建物の平面形」：円→楕円→方形への変遷パターンと時期
・季刊考古学　44号「住居論　竪穴住居の間取り」（1993）金井安子
・ジャパンナレッジ 改訂新版　世界百科事典　http://chakgpt.com
・弥生時代中期における竪穴住居平面形態の変遷とその背景　飯塚美泉（2024）
・縄文人が残した巨大モニュメント　日本のストーンサークルを考察する　佐藤 真実（2018）

発表者

教育学部美術教育専修　1年
325A4512 村松愛汰

3.ミュージアムジャック（モジュール0～3)の検証

【資料】アンケート
授業終了時　グーグルフォームに記入　対象:1~4年

①ESDフォーラムの感想（100文字程度で簡潔に）

②-A　授業を受ける前後で、登呂遺跡・登呂博物館への思いの変化はありましたか。
②-B　なぜ、変化があった（あるいは、なかった）と思いますか。

③あなた自身のプレゼンテーションへの自己評価（100文字程度）

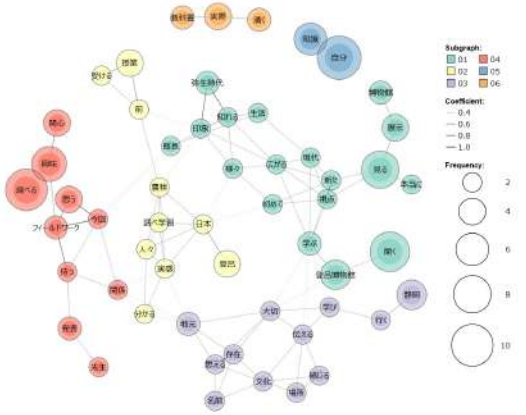
④-A　ダイアローグ等を通して他のプレゼンテーションで登呂遺跡・登呂博物館について興味を喚起したもの
④-B　興味を喚起した理由（100文字程度）

⑤その他（授業全体の感想等があれば100文字程度）

【分析】テキストマイニング

テキストマイニングとは、文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関などを解析し、有用な情報を取り出す分析方法。なお、本分析には「KH Coder」を使用した。

② 授業を受ける前後での、登呂遺跡・登呂博物館への思いの変化



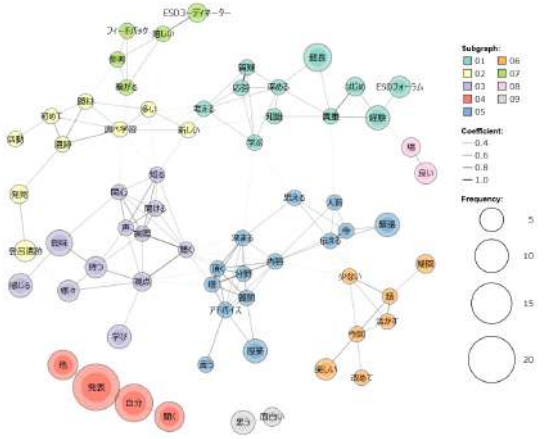
学ぶことで
好きになる

いつのまにか
巻き込まれる

地域の宝

私はこの授業を受けるまで、登呂遺跡について近くにあることを知っている程度であった。しかし、実際に歩いたり調べたりする中で、登呂遺跡について興味関心がわき、私にとって登呂遺跡がより身近な場所に変わっていったから。静岡市立図書館に行き書籍を調べるなど、積極的に行動している自分に驚いた。****3013

① ESDフォーラムの感想



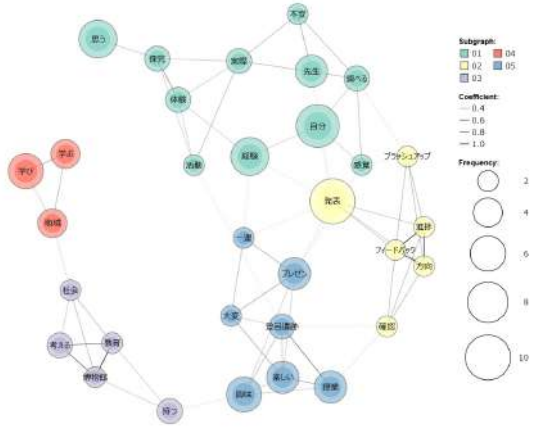
緊張感から
おもしろさへ

さまざまな
専門家の存在
↓
学びの深化

新たな視点

ESDフォーラムはいつもの授業と違って見識のある方々に聞かれているという理由からとても緊張した。しかし質疑応答の時間や講評の時間に生まれた会話や話題はすごく面白かった。フォーラムを通して自分の成長を感じることができたし、これからの学びや興味関心につながった、有意義な時間だった。****4025

⑤ その他（授業全体の感想）



自分の成長

毎週発表をして先生にアドバイスを頂くことでどんどん自分のプレゼンがグレードアップしていくような感覚だった。高校の時の発表とはまた違う緊張感があって、新しい学びがたくさんあった。****0007

発表までに疑問を見つけ、資料を探し、3分のプレゼンにまとめるといった一連の流れは大変でしたが、大学以前はあってもクラス内発表だったので、こうして外部の方々に発表するという経験が1年生のうちにできたことは勉強になりましたし、「大学生」っぽくて楽しかったです。****4512

考察

３つのステップ

図の出典：http://www.pajaposs.sakura.ne.jp/ikemoto/senryaku/b-tokuchou.html

単発の知識をから文脈を読み取る

多角的に捉え全体がぼんやり見えてくる

関係性・文脈・時間軸の統合
全体のイメージができる

深い学びの背景

教師の役割

教師は（考古学の）専門家である必要はない

状況づくり（カリキュラムマネジメント）
足場づくり（ヴィゴツキー「発達の最近接領域」）

9

モジュール4:静大生による誌上ミュージアムジャック

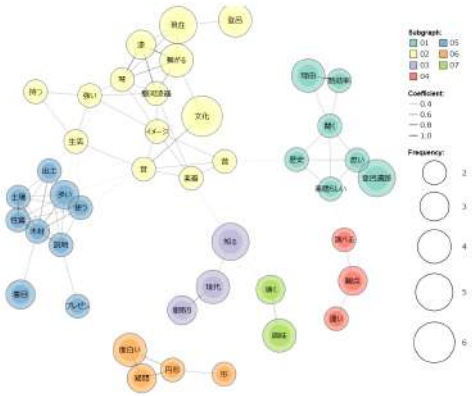
しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業助成金

【研究事業名】登呂博物館の可能性と拡張性を引き出すコンテンツの開発

【研究の目的】登呂遺跡に関するアンラーニングをもたらし、シビックプライドの醸成につながるおとな（教育関係者・市民）を対象としたコンテンツを作成することを目的とする。

10

④　興味を喚起したプレゼンとその理由



当時の生活や文化

現代とのつながり

おどろき

琴という一つの出土品から漆について触れて静岡の工芸品に繋がることで、大昔の文化と現在の私の文化との結びつきが感じられたことに心がくすぐられた。~****4109

縄文時代や弥生時代の住居は円形であることに今まで全く疑問を感じてこなかったため、そこに着目したうえできちんと根拠があり意味ある形だったと知れたことがとても面白かったため。****0007

11

当時の生活や文化

12

おどろき

ESDフォーラムの
ダイアローグから発展

登呂のムラは、2700年前ラグーンだった

登呂遺跡は2度目の洪水で終焉を迎えたといわれているが、弥生時代後期にはたびたび洪水の被害を受けるようになっていた。その背景には、気候変動があったと考えられている。雨量の増加により安倍川上流で土砂崩れが発生し、流出した土砂で下流の河床上昇により流れが覆き止められていたり、海面が上昇し安倍川の流れが滞ったりする状況にあった。
一方、安倍川の流れを見ると、現在と大きく違っていたことが想像できる。また、2700年前は、登呂のムラのあたりはラグーンだったともいわれている。

今から500～600年前の安倍川の流れ
参考：国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所
https://www.cbr.mlit.go.jp/shizuoka/river/overview-abe/

2

13

現在とのつながり

高床倉庫のネズミ返しに注目！～登呂での大発見

登呂遺跡の高床倉庫の用途不明の木製品を文化人類学の研究者が「ネズミ返し」と推定した。地質学・動植物学などの各分野の研究者が加わった「静岡市登呂遺跡調査会」の功績である。「ネズミ返し」とは、ネズミの侵入や移動を物理的に防ぐための器具や構造物であるが、現在の船舶の係留ロープや倉庫の貯蔵施設にも取り付けられる器具として進化しているのかもしれない。温帯のクマネズミは木を登る力が強く、ネズミ返しも大きかったといわれている。

登呂遺跡のネズミ返し

6

14

教育実践への提案

1950

戦後の教育実践

静岡大学教育学部附属静岡小学校では、「教科をのりこえる学習～登呂の子ども」をテーマに10年間生活教育にチャレンジ。研究記録をまとめたものが、1957（昭和32）年に書籍として刊行されました。そこには、竪穴住居を実際の3分の1でつくり、火を起こし、魚を焼いたり、古代に思いをはせ、祭りを楽しんだり、登呂遺跡を対象に学ぶ子どもたちの姿がありました。現在、大切にされている合科的・関連的な学習の原点がここにあるように思います。

15

【ラウンドテーブル】

田宮　縁

ラウンドテーブルでは、拡張性、一つは発達段階、２つ目は教科横断、３つ目は社会教育と学校教育の新たなる展開について対話していきたい

このラウンドテーブルでは、社会教育と学校教育を融合させた「カリキュラムパッケージ」を使ったミュージアムジャックの魅力について、社会教育あるいは家庭・地域、学校教育それぞれの立場からお話をうかがいたいと思います。また、発達段階や教科の違いを超えて通底しているところ、エージェンシーを発揮している子どもの学びなどが明確となってきたように思います。今回はその拡張性、一つは発達段階、２つ目は教科横断、３つ目は社会教育と学校教育の新たなる展開について対話をしていきたいと思います。
ラウンドテーブルでは、フラットな関係での対話を進めたいと思いますので、先生ではなく、「さん」と呼ばせていただきます。また、多様な専門をお持ちの方がご参加くださっているので、専門的な用語ではなく、わかりやすい言葉でお話しください。なお、本ラウンドテーブルでのご発言は、ストリーミング配信、記録として発信されます。ご承知おきいただきたく存じます。また、時間も限られておりますので、謝辞などは省き、簡潔にお話ください。

田宮　縁

学校にありがちな形骸化をどのように解消しているか

それでは、実践報告に対して、私からいくつかの質問をさせていただきます。まずは、明治学園小学校校長の佐藤さんにお聞きします。ミュージアムジャックは広がりを見せております。今年のジャックも楽しそうに取り組んでいらっしゃいましたが、学校にありがちな形骸化をどのように解消していますか。

佐藤一成（明治学園小学校校長）

子どもの実態への対応、教師の学びの積み上げにより毎年アプローチは違う

今年ですね、本校は取り組み４年目を終えました。子どもたちの実態も変わっていますし、教師も実は一緒に学んでいますので、毎年少しずつアプローチは変わってきているなと感じています。先ほど実践報告がありましたけれども、今年度は大きく３つあったかなというふうに感じています。

今年はイメージマップを活用した

一つ目は、課題設定の段階で、イメージマップを活用したということです。環境学習というのは、 ４年生にとってはとても内容が難しいんですね。イメージマップを最初に作っていくことで、知識が共有できる、同じ土俵に立って学びをスタートすることができるというところがあると思います。イメージマップが教室に飾られているところで、そういったところで、どんどんどんどん学びが広がってつながっていくというところがありました。

楽しみながら取り組んでほしいという教師の願いから、表現を広げる働きかけをした

２ つ目は、表現をいろいろと広げていこうというような働きかけをしました。それは、勉強という形ではなくて、子どもたちにも楽しみながら取り組んでほしいという教師の願いがあったからです。

ゲストティーチャーによる「46 億年地球の道」をテーマとした授業を行った

それから最後、 3 つ目ですけれども、ゲストティーチャーをお招きして、46 億年地球の道という，というところの話をしていただきました。これは、やはり子どもたちの興味・関心を広げていく、喚起していくという今年度、大きく 3 つの取り組みがあったかなと。いうことです。

田宮　縁

ブラッシュアップしていくための取り組みなされていたことがわかった～「46 億年地球の道」とは？

ありがとうございました。イメージマップのお話、そして楽しさを感じながらの表現や行動、「46 億年地球の道」というような、形骸化しないというだけではなく、ブラッシュアップしていくための取り組みがなされていたのではないかと感じます。少し「46 億年地球の道」について、関さん、お願いします。どんな取り組みかご紹介ください。

関　宜昭（NPO 法人里山を考える会代表）

「夢追い塾」の卒塾生 2 人がどこでも使える「46 億年地球の道」を作成。明治学園小学校 4 年生の教室が、そのお披露目の場となった

ミュージアムの横に 46 億年を 460 メートルで歩くというコンテンツがあるんですけども、今、さわれない状況になっていて、それをどこでもできるコンテンツにしたいなと、地球の道、どこでも地球の道を歩けるようにしたいなということで、「夢追い」という生涯学び続ける塾というのがありまして、そこの卒塾生の 2 人が一年間苦労してですね、それのコンテンツのお披露目を明治学園の 4 年生でやらせていただきました。

ジャック後の活動の幅を広げるきっかけになる可能性があると思う

桜井さんと桜木さんという私も「さくら 2」と呼んでいるんですけれども、その 2 人がメインになって明治学園の 4 年生を相手にして、ジャックの後にもう少し幅を広げていければいいなということでやらせていただきました。

「夢追い塾」の学習のテーマは「互いに」、「楽しく」、「体験から」。その成果をモジュールの流れに乗せた

私どもの学びというからは、互いにまずは楽しく、互いに体験からという、その 3 つのテーマをしてまして、そういう学習の流れを伝えていければなということで、モジュールの中にもそのコンテンツを入れていただいて、明治学園の佐藤校長、諸藤先生にご協力いただいて、走らせているのが状況です。

田宮　縁

「互いに」、「楽しく」、「体験から」、ゲストと子どもたちが授業を創り上げていた。クラスに個性的な雰囲気があった。ジオリアのミュージアムジャック、昨年度と今年度の違いは？

関さん、ありがとうございました。今、シニアの学びにもつながっていくと。私も参加させていただいたんですけど、シニアではなく、壮年期のお二人の楽しい授業だったかなというふうに思いました。冒頭で述べた通り、様々な年代の方、立場の方と触れ合っていく、対話をしていくというのが、今だからこそ、子どもたちの大切な体験になっています。ある意味一つの点をどのような形でモジュールの中に組み込んでいくか、それが一つの点をどのように生かしていくかを整理、可視化するものがモジュールシートであり、また、それぞれ学校でどんなことをねらっているのかを社会の人々と共有できるといいと思います。

4 年生の各クラスを参観させていただきましたが、同じ内容であった意にしてもゲストティチャートとクラ

スの子どもたちで授業は創り上げられていくとあらためて感じました。さて、ジオリアでのジャックは２年目となりますが、昨年度との違いを教えてください。

福井孝子

2 年目はミュージアムが対応を工夫。特に職場体験の内容。子どもも働くことの楽しさを感じていた

失礼します。まずですね、ジオリア様の対応、今年はより工夫されていたかなというふうに思います。特に職場体験ですね。この内容がすごく充実しておりまして、子どもたちは職場の体験を通じまして、本当に働くことが楽しいとか、接客が楽しかったというような、そんな感想をたくさん持つ子がいました。

5 年生のミュージアムジャックを踏まえて、6 年生では発展的な探究の時間を持つことができた

また、先ほどの報告でもさせていただいたんですけれども、5 年生のミュージアムジャックでの体験を踏まえて、 6 年生の総合的な学習のカリキュラムをちょっと変えましたので、ミュージアムジャックのねらいというものを 2 年かけて、子どもたちはより深く達成できたのではないかなと思います。

ミュージアムという学びの空間が、多様な子どもたちの個性の伸長に寄与している

また、違いというよりは、昨年度もそう感じたんですけれども、今、本当に学校には多様な子どもがいまして、その一人一人の個性の伸長というものを支援していくということが非常に求められているんですけれども、このミュージアムジャックの取り組みというのは、学校の中での学びにとどまらず、楽しい学び、学校の外に出る楽しい学びですので、ちょっと学校に行きづらいな、なんていうお子さんにとっても非常に興味を持って取り組める内容だと感じます。そんな可能性がある取り組みだと思います。以上です。

田宮　縁

一人一人の興味や関心に即した学びをミュージアムという空間が提供できるのではないだろうか

はい、ありがとうございました。今のお話の中ですね、一つはリアルな体験がどのように 6 年生へつながっていったのかということもお話しいただいたかなというふうに思います。あと多様性への対応ですね。学校にちょっと来づらいお子さんであったにしても、ジオリアの石を見ることが好きだとか、地層が好きなんだというお子さんにとってみると、そこでの学びというのがあったのではないか、実はですね、そういったフィットした学び方っていうのは、これからミュージアムが提供していけるのではないかなというふうに思います。

松原さん、私は登呂博物館の協議会のメンバーですが、先日の協議会でそのような話題が出てきたかなと思います。

松原草太

博物館に来ること自体が「博物館浴」。空間に来ること自体が有効なメンタルケアになる可能性もある

はい。先日の博物館協議会の中でも出ていた話ですけども、博物館に来ること自体が「博物館浴」、博物館を浴びるというか、その空間に来るということ自体が処方箋になる、メンタルケアになるというような事例もあるというような話が出ていましたので、有効な手段になるのではないかなというふうに思います。

田宮　縁

ミュージアムは自由な学びの場。学校教育、そしてウェルビーイングの部分を担う可能性も秘めている

ありがとうございます。今、メンタルケアというお話も出ましたけど、例えば、学校に行きづらいお子さんのメンタルケアとか、サポートの人がいれば、可能性って高いのではないかな。そういった人材がいれば、居場所づくり的なもの、勉強する居場所づくりにもなっていくのではないかなというふうに思います。

アメリカのオハマの動物園を訪問させていただいた時、数名の高校生たちも毎日動物園に来て、動物のことを学ぶだけではなくて、他の教科のことも学んでいる姿を見たことがあります。そこには先生でしょうか。おとなもいました。また、その動物園では幼稚園や保育所が併設されていました。

ミュージアムは自由な学びの場として、学校教育、そしてウェルビーイングの部分を担う可能性も秘めているということなのかなというふうに思います。それでは、今回のイベントのコラボ先の代表の北九州 ESD 協議会の日高さん、今までの実践報告や対話の中での質問等がございましたら、いただけると嬉しいです。

日高京子（北九州 ESD 協議会代表・北九州市立大学教授）

静岡と北九州のコラボのきっかけと登呂博物館でミュージアムジャックのはじまりを知りたい

ありがとうございます。田宮さんには素朴な質問をお願いしますと言われているので、素朴な質問をいたしますけれども、そもそもどうして静岡、遠く離れている静岡と北九州との一緒にコラボしようというふうなきっかけがありましたら教えてください。2 つ目は登呂博物館の方でやろうっていうふうになったきっかけを教えてください。

田宮　縁

関係性は「北九州が好き」から始まる。2019 年の ESD フォーラムのフロアから里山を考える会の取り組みについての紹介され、そこから本格的な連携がスタートした

はい。じゃあ、まず一つ目からお話をさせていただきますと、簡単に申し上げますと、10 年以上前になりますが、科研費の調査で北九州を訪問させていただいて非常に北九州が好きになりました。その後、自分の娘も北九州市立大学にお世話になりました。その際に環境ミュージアム、里山を考える会に大変お世話になったという経緯がございます。静岡で行った全国初の幼児教育 ESD フォーラムのシンポジウムで娘がフロアから里山を考える会の放置竹林問題の解消として行っている竹で作った楽器をエコライフステージで演奏したという話をしました。次の年のフォーラムの時に、面白い活動なので、関さんにフォーラムにいらしていただいて、環境ミュージアム，北九州の取り組みをお話しいただきました。そこから北九州の環境ミュージアム、里山を考える会と静岡大学との関係性がスタートしました。ご興味がある方はぜひポスターの方にどういう形で関係性を築いてきたかということが書かれておりますので、後ほどご覧になっていただけるとありがたいです。どうして登呂博物館っていうことなんですけど。はい、松原さん。

松原草太

昨年度、館長とともに ESD フォーラム参加後、実際のミュージアムジャックを参観。理解が深まった

そうですね、先ほども話が少し出ましたけども、まず，田宮さんが登呂博物館協議会の方で委員を務めていただいているということで、昨年度の ESD フォーラムに、私と館長の方で参加をさせていただきました。でその後、事例紹介ありましたけども、明治学園小学校さんと大仁北小学校さんのミュージアムジャックを実際に私とあの館長で見させていただきました。ミュージアムジャックについて知ったというところであります。

博物館と学校の連携については、協議会を中心とした関係性の中で実施に至った

登呂博物館協議会の中には、田宮さんの他にも、先ほどご紹介しました南部小学校の現在の校長先生と前任の校長先生がいらっしゃって、博物館と学校との連携を考えていくというところでご紹介をいただいて、なおかつ，担任の６年部の先生にも、小学校６年生に必ず扱うのでということで、後押していただいたところというような、関係性の中で取り組みに至ったというところと、もちろん大学についても、田宮さんの方とつながりの中で実施に至ったというような流れになります。

田宮　縁

「関係性」という言葉がキー。同じ方向性を向いている人々の熱量でミュージアムジャックがスタート

はい、ありがとうございました。今、関係性は一つのキーになってくるものかなというふうに思います。同じ方向性を向いている者同士が、これを一緒にやったら、さらにいいものに発展していくのではないかと。実際に登呂博物館の岡村館長と松原さんはすごく熱心で、北九州までミュージアムジャックを見に来てくれたんです。あとジオリアにも行かれているんです。昨年度の ESD フォーラムにお二人参加されていて、その中でも館長はかなり前向きな発言をされていたかなと。

モジュールシートに関して前向きな発言をされていて、もしかしたら今年度やるのかなと思っていました。あと南部小学校の実は校長先生、先ほど少し紹介した戦後の実践『登呂の子ども』という本が静岡大学の附属小学校に勤務されていた時に読んだことがある人なんです。だから、ああいうのをやってみたいっていうふうに思っている。同じことはできませんが、そういう思いを持つ人々の関係性の中で成り立っているのかなと思いました。

ミュージアムジャックを実践する場合の博物館側の負担感は？

昨年度の ESD フォーラムの報告書も持ってきていますので、そちらの興味がある方はぜひお持ちいただいてご覧いただけると、館長がどういう発言をその中でしているかをお読みください。ぜひご活用いただければというふうに思います。

それでは、受け入れ側の登呂博物館として、ミュージアムジャックをやって負担感はあったかどうか。

松原草太

事前ヒアリングでの印象～登呂博物館でもできそうだ

はい、そうですね。まず、昨年度事例を実際見せていただいたというところがまず一つ。あと、ジオリアの方に伺ったときに、施設の方にお話をお聞きしました。「どれほど大変ですか」って。実際に聞いてみたら、「それほどでもないですよ。ジオリアとしても特別なことはないですよ」という話をお伺いしていたので、登呂博物館でもできるかなと思っていたのが第一印象です。

実際に今までも行ってきたメニューをアレンジしただけなので負担感はなかった

実際にやってみてというところだと思うんですけども、先ほどご紹介した内容、出前授業に行ったり、博物館見学があったり、土器炊飯したりというのは、もともと登呂博物館としてはそれまでも行ってきたメニューなので、もちろん対応する学校団体が増えれば仕事は増えますけども、その何か新しくつくり上げていくということではないので、そういった部分での負担感は特になく、あの実施ができたかなというふうに思います。

田宮　縁

博物館のメリットは？

ありがとうございます。博物館側のメリットは何かありましたか。

松原草太

通常の授業では、弥生時代―登呂遺跡で終わってしまう。子どもの探究の内容が、実は学芸員が伝えたいことだった。また、小学生自身の興味や関心や説明のしかたなども子どもから学ぶことができた

はい、そうですね。どうしても。学校の授業の中という、くくりになりますと、ええ、弥生時代―登呂遺跡っていう、その部分だけで終わってしまったりだとか、時間に限りがあるという中で、「私の学芸員として伝えたいところはもっとあるんだけども」っていうところはあっても、なかなか話が広がっていけない。でもそれを小学生自身がもっとこんなことが知りたいんだ、こんなことを勉強したいんだっていうことが、実際に調べてきてくれたことが、実は私たちが伝えたかったりというところになったり、あるいは会話をする時間がインタビューしてくれてお話しすることができている時間があるので、お互いに私たちからしてもこんなふうに説明したら良いんだなというところがありました。

学史の部分に注目し、ガイドした小学生の存在が大きなメリット～博物館からはアプローチしにくい

とても一つ大きかったのは、弥生時代にとどまらず、いわゆる学史の部分ですね。登呂ってなぜ残ったのだろうとか、なぜ整備されたんだろうというところをこう注目して、実際にそのガイド役になって、展示室の中にその紹介するコーナーがあるんですけども、そこに立ってくれた子がいたっていうのは、なかなか博物館からのアプローチではできない、痒いところに手が届くようなことをしてもらえたっていうのが、とても大きなメリットだと思います。

田宮　縁

小学生も大学生もあまり変わらない～興味や関心、探究のプロセス

はい、ありがとうございます。実際に今お話を聞くと、小学生も大学生も変わらないなっていうところが感想で、博物館のメリットとしては、やはり一方通行ではなくて、総合的な、例えばヒアリングに子どもたちが来るとか、大学生が来るというときに、じゃあ一体何を相手は知りたいのかを知ることができる。それに対応した形で、その後、博物館も対応することができるんじゃないかなっていうこと。

学史に興味を示す大学生も多かった

それとですね、もう一つ、学史ですよね。なぜ登呂は残ったのかっていうところなんですけど、これは実は大学生のすごい興味があるところなんですよね。今につながっていることなので、人々の思いとかそういったことにすごく注目していたと思います。今回のですね、誌上ミュージアムジャック、みなさまに配布させていただいているのも裏面は発見から現在へのつながりになっているんです。要はそこのところだけ、何人もの学生たちが少しずつ視点を変えて探究していったのだと思いました。

で、今日は大学生の ESD フォーラム、モジュール 3 にあたるところに ESD コーディネーターとして参加していただいた山田さんにお話ししていただきたいと思います。お願いします。

山田浩昭（ESD 国際化・ふじのくにコンソーシアム ESD コーディネーター・浜松学院大学教授）

7 月の登呂博物館での ESD フォーラムで、学生は想定外の質問を受け、応えられなかった。そこから目つき

が変わる。ミュージアムジャックまでの間にモジュール3があることで次の段階に進むことが可能に

山田です。登呂遺跡の大学生のフォーラムの方に、私の方も含めて3人でコメンテーターとして参加させていただきました。率直な感想ですけれども、さすがに静岡大学の学生たち、発表の様子も、それから質問の様子も見ていて、ああ、立派だなということをまず思いました。きちんとやっているなと思いました。

その上で、ですけれども、先ほど松原さんの方からもお話ありましたけれども、少し専門的なことに突っ込んで、例えば、ラグーンの話とかありましたけれども、登呂は、昔はラグーンだったような、それからネズミ返しの話とかもありましたけれども、その他にも、例えば、今静岡で食べているもの、みなさんが食べている特徴的なものと、当時のものと何か違いがあるのとかっていうところ、そういう質問に対して意見も言ってもらう場面があったんですけれども、そこではやっぱり学生さんたち黙ってしまったんですね。

そういうところがあったんですけれども、今言ったラグーンの話とかも含めて、そういう黙ってしまった質問のところ、そこのところからなんか目つきが変わってくるっていうかね。ですから、今までそこまで自分たちで学習したり、モジュール4をめざしてっていうところの、その途中の段階でもESDフォーラムがあったことによって一段ポンと高まったっていう、そういうことをすごく感じました。以上です。

田宮　縁

多様な専門家がいる中でのESDフォーラムは学生にとって、学ぶことの楽しさを実感した時間だった

ありがとうございました。静岡大学の学生が聞いていたら喜ぶところかなというふうに思いますが、ここのところで黙ってしまう、質問にされたところで黙ってしまうところから目つきが変わる、そこがやっぱり学生にとっても一番のポイント、楽しかったポイント、フォーラムで、自分が応えられなかったところをちゃんと突いてもらう。だから、そういう体験が一歩、次の段階に行けるっていうのは、学生自身も感じていたことかなと思います。イルカのことについても、登呂博物館企画展図録に掲載されています。図録は、実は登呂博物館の図書コーナーや大学の図書館にあります。ネットで調べることが中心で、実際に体を動かしたり、博物館や図書館に行って調べたりするところまで至らない学生もおりました。それに気づけただけでもよかったかもしれません。少し、視野を広げられるとよかったかなと思います。

実際に山田さんは浜松学院大学で教鞭を取られていますけど、授業でこのような取り組みをどのように評価しますか。

山田浩昭

大切な活動だが、大学の講義で行うのは難しい部分もある

本当に大切な活動だなということも間違いないんですけれども、現実的な問題として、大学の講義、1単位、2単位、つまり8時間というか8回シリーズとか15回シリーズで仕上げなければいけないんですけれども、そのためにはちょっと時間が足りないかなっていうあたりが実の課題です。

田宮　縁

来年度は、高齢者を対象としたミュージアムジャックを行う。～ガイディングが探究の中心

PBLとしてはかなりタイトなんですよね。モジュール4は誌上で行うということで今回対応しました。

来年度の受講生にはもちろんモジュール1の登呂遺跡でのフィールドワークなどはお願いしますが、モジュール4の部分（高齢者に対してのガイディング技術の探究：モジュール2、高齢者学級の生涯学習センタ

ーの担当職員の講義：モジュール 3）が来年度の中心的な取り組みになると思います。
山田さんは特別支援を専門とされています。特別支援の視点からもお話しいただければと思います。

山田浩昭

特別支援学校の総合的に学ぶ作業学習も、モジュールシートでも語れる。大切なことは全く同じ

すみません。今、ご紹介いただいたように特別支援の方が私の専門になります。そこでちょっとそこに触れたいと思うんですけれども、今、小学校、それから大学生っていうことで話がありましたけれども、同様に特別支援学校、特に知的障害の特別支援学校の児童生徒にとっても全く同様に同じように効果的だなっていうことを、今、私すごく感じています。今、知的障害の特別支援学校、特に私、静岡県にいますので、静岡県の学校では、中学部、高等部ではね、作業学習っていって、教科に分けてではなくて、総合的に学ぶ作業学習というものがありますけれども、その学習の中で全く同じことを大事なところとして抑えてやっているかなというふうに思っています。

合言葉は「人のために」。海岸線に捨てられた釣り糸やルアーを片付けてルアーに再生、間伐材を利用して踏み台を作成など～活動の途中で専門家が関わることで一段階高まった学習が可能となる

どういうことかっていうと、例えばその作業学習の中で、「人のために」とかっていうようなことを、合言葉で学習をしています。その「人のために」だけではなくて、その中に、今流行りとしては、今ある環境をどのようにっていうことを非常に大事にしてやっている学校がたくさんあります。例えば、海岸線をきれいにしようとか、もう少し具体的に言うと、釣り人が残した釣り糸とか、それとかルアーを片付けて、それのルアーを再生しようとか、あるいは海だけでなく、山の方であれば、間伐材を利用して、踏み台を作って、これを売ろうとかっていうようなことをやっています。その活動の中で、今出たような話の中で、活動の途中のところで、外部の本当の専門家の人たちの話をボーンと入れてみたりとか、やり方をその人たちに教わろうということで、やっぱり一段階それが高まるっていうのをすごく実感しています。ですので、そういう意味で全く同じだよって、そんな実態があるかなということで・・・。

田宮　縁

カリキュラムパッケージの拡張性、汎用性についての言及だった。状況をつくることで主体的に取り組むのは、幼児も大学生でも同じ。特別支援学校でも質の高い ESD を実践している

実際には、特別支援学校の SDGs への取り組みっていうものは、非常にレベルが高いなっていうのと。同時に、特別支援学校の先生方も非常に理解している部分があるかなというふうに思いました。ありがとうございました。

今の話の中で出てきたのは、状況をつくることで主体的に取り組むことができると、どういうふうな状況をつくっていくかなんですね。その中で学外の人と関わることで、緊張感も生まれます。真剣味も生まれてくるように思えました。状況はどのようにつくっていくのか、幼児でも大学生でも同じなんだろうなっていうふうに。改めて感じたところではあるんですけど。

今のカリキュラムパッケージの拡張性とか可能性について、また社会教育と学校教育の連携の可能性についてをテーマに、今お話を進めてきましたが、会場の方でもし質問とか、ここ聞いてみたいよ、意見じゃなくて質問聞いてみたいよとかっていうことがありましたら、ぜひお願いします。前まで出てきてください。所属とお名前だけ、活動何しているかとかそういうのは必要ないので、質問を端的にお願いしたいと思いま

す。

細井陽子（九州女子大学生活デザイン学科講師）

ボランティアさんの子どもたちとの関わりやその方達の良さを知りたい

こんにちは。九州女子大学生活デザイン学科、細井陽子です。出張ついでに登呂遺跡にこの間、去年行かせていただいたんです。街中大道芸をやってる直前ぐらいの頃で。たくさん本当にですね、その遺跡、外側の遺跡もリアルで素晴らしく、そして中の方に実際、外側の遺跡と同じようなものをつくっておられて、そこでたくさんのボランティアさんがいらっしゃいました。ですから、そういうミュージアム内のボランティアさんとの関わりですとか、それで子どもたちがどうあったとか、またボランティアさんたち、割とシニアの方が多かったんですけど､その方たちがどういう良さがありましたかっていうのを教えていただきたいです。

田宮　縁

ボランティアさんがどのように学校教育に携わったか

じゃあちょっとテーマの方に寄せていきますと、ボランティアさんがどういう形で学校教育に携わっていたのかっていうことをお話いただければというふうに思います。

松原草太

ボランティアさんの得意な分野を生かして学校教育に関わってもらっている。例えば、土器作りに職員とともに学校に行ってもらうのど。訪問先の学校が母校だったときにはさらに関係性が深まった

はい、そうですね。えっと、今回のミュージアムジャックでいうと、実際にお客さん役になってくれているっていうようなところがええ一つです。で、ただ、えっと、ボランティアさんの話で言うと、えっと、中身としては地域の方々が基本的なんですけど、もちろん高齢の方もいらっしゃいますし、博物館では高校生からボランティアがオッケーにしているので、高校生から幅広い人がいる。で、学校の部分でいうと、そのボランティアさんの中にもそれぞれ得意な分野があるので、例えば、昨年度だと、実際にそのちっちゃい土器をつくろうっていうのを学校でする時に、あの博物館職員の手が足りない時に一緒に行って、出先で手伝ってもらって、一緒に講座をする。そこで一つ驚いたのが、実はそのボランティアの母校だったというところで、一つつながりが生まれたということは関わりとしてあります。

田宮　縁

学校で何をねらっているのかという共通認識と発達段階に応じたプログラムという点が課題かと思うが･･･

はい。様々なところでボランティアさんがカリキュラムの中に入っているということですね。一つ課題だと思うのが､そのボランティアさんたちが, 学校教育の､そこで何をねらっているのかっていうことについて､学校と共通認識を持っているかどうかっていうことが一つと、それとあとは、幼・小・中・高ってあるじゃないですか、学校教育って。その時に、その発達段階に応じたことについて、ボランティアさんがどれだけ認識されているのかなっていうこと。

松原草太

登呂博物館では、ボランティアさんのオリジナル部分もあるし、博物館からお願いすることもある

そうですね。まず、登呂博物館としては、そのボランティアさんに対して、こう縛りというか、何かを求めるというようなことは、基本的に強くしていない。なるべくたくさんの方に来ていただけるようにっていうことをしているので、そもそもその、なんですかね。そこの線引きというものを博物館の方でしていないというのが実際になります。ボランティアさんのオリジナル部分もありますし、博物館からこういうことをしてくださいねと形を指定をすることもあります。ちょっと何か概念だとかルールを設けて、何か一緒に考えるというよりかは、してほしいことをしてもらうっていう形になっているかなと。

田宮　縁

ボランティアさんのスキルアップが地域の教育力向上につながる

ありがとうございます。ボランティアさんたちがスキルアップしていくことで、地域の教育も底上げしていく可能性あるかなっていうふうに思ってますが、どうでしょうか。

松原草太

ボランティアさんの経験してきたことや得意なこと、意見などを博物館が受け止めることができれば地域の教育力向上につながる可能性は大きいかもしれない

そうですね。協議会でも話が出ましたが、ボランティアさんたちに何を求めるか、あるいはボランティアさんたちは何が得意かというところもそうだと思うんですけども、実際にもともと学校の先生やっていた方なんかもいらっしゃいますので、そういう方々の意見だとか、底力みたいなものを博物館側の方で受け止めることができれば、可能性はとても大きいのかなと思います。

田宮　縁

諸藤さんの実践発表に刺激されて、京都市の小学校２年生が動物園ジャックを行った

うまくコーディネートしていけると、人のコーディネートがうまくしてければ、もっともっといいものになってくるんですね。もしかしたら、どこのミュージアムでも同じ課題があると思います。

ちょっと視点を変えていきます。諸藤さんにちょっとお伺いしたいんですけど、夏休みの私立の研修会で諸藤さんの実践報告に刺激されて、京都の小学校 2 年生が京都市動物園をジャックしたわけなんですけど、2 年生の動物園ジャック、どのように思われましたか。休憩時間の時にビデオを見てもらいましたけど。

諸藤大揮

京都聖母学院小学校のパワーに驚いた。こちらも刺激をもらった

まず、夏休みに全国で発表した後にもうすぐ興味を持っていただいて、それを学校に持ち帰って、もう２学期に実施したっていう、そのパワーがまずすごいなというふうに思いました。すごく刺激をもらいました。逆によく校長とうちも負けてられないという話をして、今やっているジャックをもちろんよりよくするのはもちろんなんですけど、新たなミュージアムジャックをちょっとしないかということで、逆にこっちが刺激をもらっていて、今ちょっと２人で燃えていますね。

田宮　縁

総合的な学習の時間や生活科は岐路に立たされているのでは・・・。ミュージアムジャックは一つの突破口となる可能性を持っている

校長先生と燃えていることがあったんですけど、よっぽど諸藤さんのプレゼンテーションが魅力的だった。もちろんプレゼンテーションも魅力的だったし、実際にやっているミュージアムジャックっていうのを取り組んでみたいと思えるものなんだろうなって。今、多分、総合的な学習とか生活科って岐路に立たされているような気がします。突破口の一つになり得るかなというふうに思ったんですけど、いかがですか。

諸藤大揮

京都聖母学院小学校の校長先生も「突破口が見えた」とおしゃっていた

いや、京都聖母小学校の校長先生からも、すごい突破口が見えましたというふうに、それこそ同じような言葉をおっしゃっていただきました。これもそこのジャックが、総合的な学習の時間のアイデアに困っている学校さんにとっては突破口になるものだと思います。

田宮　縁

実践の流れをまとめるモジュールシート

ありがとうございます。一つ突破口になるということで、ミュージアムジャックという方法を使っていいっていうのは一つあると思うんですけど、あともう一つは、モジュールシートの流れでまとめると、比較的まとまりやすいんじゃないかなって。それを福井さんに聞いてみようかな。福井さん、どうですか。

福井孝子

モジュールシートに落とし込むことで、今まで行ってきた実践の見通しがたち、取り組みやすくなる

そうですね。本校も５年生がやっていた総合的な学習の時間を、まずモジュールシート入れてみたんです。もちろん最後はミュージアムジャックっていうところに行き着いたんです。結構同じような展開でやってるじゃんっていうようなところがあったので、昨年取り組んだ担任は取り組みやすかったんじゃないかな、見通しも持ちやすかったんじゃないかなというふうに思います。

田宮　縁

実践者自身が、点が線になり、ストーリーが見えた時に意識が変わる

多分それが昨年度の南川さん取り組んでいる時に、南川さん自身が一つずつの点だった活動が線になってきたって、それでストーリーが自分の中で見えた時に（意識が）変わっていくんですよね。多分、実践も変わっていくんじゃないかなっていうふうに思います。

環境ミュージアムだったら、やっぱり４年生とかちょっと上の学年じゃ難しいと思うんですけど、動物園はどうですかね？

諸藤大揮

2 年生だと、国語の教材がきっかけとなり動物園をジャックしやすい。また、動いている動物自体が子どもにとって魅力的

やっぱり実際に動いている生の動物がいるということで、小学校2年生とかですと、国語の教材とか、「動物園の獣医さん」という教材があるので、そこをきっかけにスタートしていけるのではないかなというふうに思います。子どもたちはやっぱり動物が好きで、生活科だと実際に虫を飼ったり、生き物を飼ったりするので、そこがきっかけになれるのかなとは思っています。

田宮　縁

ミュージアムと教科との関連性や発達段階を考慮し、ジャックする学年を決めることが大切

やはりミュージアムと学校での他の教科との関連性とか、発達段階とかね、学年でジャックしていくのかっていうのは、もしかしたら考えやすい部分かもしれないなって思います。動物園についてのことなので、静岡市の日本平動物園の園長されていた柿島さん。どうぞこちらにおいでください。実際に動物園で似たようなこともやっていたかなと思いますけど、ちょっとお話いただければと思います。

柿島安博

目の前にいる動物の動きなど生の情報を伝えることで、お客様は動物をより身近な存在として感じることができる。ミュージアムと学校がうまくつながるきっかけにモジュールシートなると思う

はい。日本平動物園でも、以前、ミュージアムジャックに近いような取り組みを行っていました。富士市立田子浦幼稚園での取り組みは、昨年度のフォーラムでも紹介されていますけども、発達段階によって取り組み方は違うと思いますけれども、相手を意識したガイドというのは、そこにいる動物をより身近な存在にしてくれると思います。ノットワークラボ活動報告を見ますと、アジアゾウのところでは「体重が2年生150人分、少し小柄」などイメージしやすい表現をして、「また耳をパタパタさせているよ。暑いのかも」と動きとガイドの内容を結びつけてくれた話がありました。

なので、単に動物をインターネットで調べるだけではなくて、実際にその場に行って、目の前にいる動物の動きとかを見てですね、直接その動物についての情報、生の情報をお客様に伝えることができるということがとてもいいのではないかと思いました。そのためには、モジュールシートですね、こういうものを使って、ミュージアムと学校との連携がうまくつながっていけばいいかなと思います。

田宮　縁

日本平動物園では、近隣の小学校5年生も数年前にミュージアムジャックに近い取り組みをしていた

はい、ありがとうございます。実際には、東豊田小学校というのは比較的日本平動物園に近い小学校で、それは5年生くらいだったんですかね。かなりミュージアムジャックに近い取り組みがなされていました。それについても、全国幼児教育ESDフォーラムで発表していただいたという経緯もございます。

それではｍ時間もだいぶ迫ってきましたので、開始時間が少し遅かったので、少しオーバーしてしまうかもしれませんが、最後になります。昨年度のフォーラムでｍ今回のメインのテーマになっているミュージアムジャックの拡張性を述べられていた深澤さん。本日の実践報告、そしてラウンドテーブルを受けてのコメントをお願いします。

深澤邦洋（ESD 国際化・ふじのくにコンソーシアム ESD コーディネーター・静岡県立城北高等学校教諭）

ESD・SDGs の先進地、北九州市の協働・共創の取り組みをトークセッション、ポスターから感じ取れた

深澤と言います。私、静岡の人間ですが、北九州の方、何度かお邪魔させていただいています。このフォーラムの前のトークセッションもなんですけれども、 ESD for SDGs っていうような言葉ありますけど、先進的な実践都市として、この後のポスターセッションもそうですけれども、いろんな方々にですね、協働・共創っていうようなことに取り組まれていて、素晴らしいなと思いました。

私自身も実は高校の教員をしております。ESD を意識した教育実践になっております。そして、長く小学校や中学校の保護者の代表っていうような形で、ある意味、将来世代を抱えている保護者の一人っていうような立場、それから、皆さんの地域の方にございますように、自治会だとか地域防災だとか、そういうところの代表をやっているものですから、地域人の一人っていうような感もあります。そういう立場ですね、今日のいろいろな，報告をうかがっていて、あ、こうなんだなっていうふうに感じたこと４つちょっと紹介、お話しさせてください。

ミュージアムジャックはどこでもできる。年齢を問わない。拡張性や可能性は昨年よりも一歩進んだ

あの北九州とそれから静岡、いろんな海が近いとか共通点もあるんですけども、それぞれあの相違点もあると思うんです。でも特色があっても、その２つの地域でミュージアムジャックという実践、あるいは研究がですね、同時に進行していて、これ去年も言いましたけれども、場所を問わないんだなと。それから、ちっちゃい頃から大学生までっていうことで、対象、学習する対象を問わないんだなと。そういう意味で、私は拡張性とか可能性っていうようなことを、昨年よりも、あ、また一歩進んだんだっていうように感じました。

ミュージアムジャックは、学び×遊びが仕込まれている。ゲームの要素を応用し学習者のモチベーションを高め、行動を促す手法

それから会場のポスターの方にも入れられていましたけれども、このミュージアムジャックっていう教育プログラムなんですけど、まさにあのエデュテインメント（Edutainment）性っていうのが仕込まれているなっていうふうに感じています。あの一種ゲーミフィケーション（Gamification）ですね。あのミッション、ミッションが与えられたりだとかですね。あのタイムリミットがあったりとか、ちょっとずつこうステップアップしていくとか、あと体感っていうのを。重視するっていうような、そういう要素ですね。

第三者の評価により、遊んでいる感覚の中で学びが深まっていく仕掛けになっている

それから第三者の評価っていうのを、やってる本人たちだけじゃなくて、第三者がなんか評価に絡んでいる。夢中になったりとか、没入したりっていうような感覚、そういう中で，遊んでいるような感じなんですけど、その延長で実は学びが深まっていくんだって、そういう仕掛けになっているなというようなことを感じています。これも２つ目です。

学習者の発達段階を考慮し、時期、要求水準などを調整すること、既習事項と関連付けて、探究のサイクルが積み上がっていくことを可能に

３つ目なんですけれども、同じ地域でもですね、導入する時期だとか、相手、勉強するというか、学ぶ学習者の発達段階っていうのを考えて、それに応じて、要求水準とか、負荷とか、そういうものが調整できるんだ。また、社会だとか、理科だとか、いろんな教科学習。そういうのに関連付けて、習ったことを、それをちょっと使ってみるとか、もっと知りたいとか、そういうサイクルが、螺旋循環的に，年齢が上がるにつれて積み上がっていくような、そういう可能性っていうんでしょうかね、そういうものも感じました。

お金のかからない実践であるある割に、存在意義を関わっている人たちすべてが実感できる

そういう中で、学習者である子どもたち、もっと大きいのは大学生もいるんでしょうけど、それからそれを運営している実践者、それから社会施設ですね。ミュージアム代表とする社会施設、そういったところもね、大体なんとなく感じてたのは、あんまりお金かかってないようなこと実践ってことなんですね。それでいながら、存在意義っていうか、そういうようなものを関わってる人たちがみんな実感できるんじゃないのそういうようなことを感じました。

関わっている人の居場所であり、活躍の場面も創出しており、愛郷心の醸成にもつながる

はい、最後になります。その学校教育、社会教育の掛け合わせっていう仕掛けになってるんですけれども、その社会教育施設だけじゃなくて、そこに関わっているその地域のいろんな方たち、そういう方たちが生かされているんだというようなことを感じました。いろんな意味で居場所が感じられるとか、あるいは活躍の場面、出番の創出っていうような場面があったり、それから人を愛するとか、地域を愛するとか、愛みに愛郷心ですね。そういうものが醸成されたりとか。

キャリア学習的な側面～自分の「好き」を見つけるきっかけ

それからキャリア学習的な側面もあるんですね。自分はこれ好きとか、自分はこれ向いてるっていうような、そういう指向性の自覚って言ったらいいんでしょうか。そういうものをちょっと感じたり考えたりするきっかけになるんだなって。そういう教育プログラムなんだなっていうようなことを感じました。以上です。

田宮　縁

ミュージアムジャックの根底には自由感がある

ありがとうございます。非常に多くのよさがいっぱいあるんだなとつくづく思ったんですけど、私自身が今の深澤さんのコメント加えると、やっぱり自由だなって。自由感があるなっていうふうなのを思いました。やるのもやらないのも、やはりその主体に任されているっていうところが一つある。

「好き」がキーワード～好きになるプロセスをサポートするおとなも学ぶ

それとあとずっと大学生の姿を見てきても、私もそうなんですけど、やっぱ知らないところから始まるんだけど、好きになっていく過程なんですよね。それが愛郷心っていうところに最終的につながっていくのかもしれないけど、「好き」っていうのがこれからの教育のキーワードなんですよ。好きなものが見つかるかどうかっていうところなんです。ミュージアムには専門的な内容の中でもどこからでもアプローチできる。お仕事もたくさんあるから、その中での好きを見つけていくっていうのが大切なのかなっていうのも感じました。また、子どもは多様な人々との関わりの中で学んでいきますが、学ぶのは子どもだけじゃないんです。子どもが学ぶ中で、おとなも学ぶんです。その場に参加することで、私たち自身もおとなも学ぶんですよ。どういうふうに学びを構築していくかっていうのを、教員である私たち自身も学んでいるわけなんですね。深澤さんの今の話の中であらためて感じたところです。深澤さん、ありがとうございました。

みんなでつくるフォーラムについて～お礼

本日、あのご参加の皆さんも。ありがとうございました。私自身、このESPフォーラムっていうのは、主催者がつくっていくんじゃなくて、参加しているみんなでつくるフォーラムというのを目指しています。実践報告、研究報告に対してコメントなどさまざまな視点からいただきました。ただ、本当は質問をもっとたくさんいただきたかったんですけど、十分な時間が取れなくて、もしかしたら話し足りないという方もいらっしゃると思います。それはポスターセッションでの交流に期待しておりますので、

本当に皆さんのご協力で充実したフォーラムの時間を過ごすことができました。みんでつくるESDフォー

ラム、これで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

柿島安博

ESD フォーラムミュージアムジャック、終了とポスターセッションについて

はい。続いてポスターセッションを行います。ご準備をお願いいたします。16 時 20 分頃には、再び会場にお戻りください。

○受付・会場

○オープニングセッション

○トークセッション

○ESDフォーラムミュージアムジャック　ラウンドテーブル

○ポスターセッション

○クロージングセッション

令和5年度文部科学省ユネスコ活動費補助金　SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるための

カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック2023

社会教育と学校教育の融合の必要性

2023年7月、国連のグレーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、沸騰化の時代が訪れた」と発言されています。私たちは危機感をもたなくてはいけない時代になったということです。現行の学習指導要領前文には冒頭に「持続可能な社会の創り手の育成（ESD）」が掲げられ、各教科にその理念が反映されています。また、「主体的・対話的で深い学び」というフレーズは、聞いたことのない教育関係者はいないでしょう。平易な言葉に置き換えてみると、一人一人が関心に基づいた課題に積極的に取り組み、多様な経験をもつ方、年代の方との対話を通して課題解決に向けて繰り返し学ぶことが重要だということです。

この背景には、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちにつけてほしい資質・能力は、従前の教育内容・方法だけでは身につけていくことが難しくなってきているという現実があります。そのため、学校は地域のさまざまな経験と知見を有する人や組織と互恵的な連携を図ることが必要となってきているのです。学習指導要領前文で述べられている「カリキュラム・マネジメント」、「地域に開かれた教育課程」、「学校種間の接続」は学校と地域の連携のアウトプットであり、ともに活動する中で、子どもだけでなく、おとなにも持続可能な社会の創り手としての価値観と行動の変容というアウトカムがもたらされます。

社会教育と学校教育の融合のためには、お互いが理解できる言葉で語り合うことが必要です。そのためのツールとしてこのシートを作成しました。考えを共有し、実態にあったオリジナルカリキュラムを両者で作り、実践をブラッシュアップしていきましょう。

「カリキュラムパッケージ　ミュージアムジャック2023」は以下の3点で構成されています。

本シート

https://knotworklab.com/data/2041/

ESDフォーラム ミュージアムジャック2023 報告書

https://knotworklab.com/data/2038/

ビデオ『ミュージアムジャック』（3分50秒）

https://knotworklab.com/data/2039/

「カリキュラムパッケージ　ミュージアムジャック2023」は、明治学園小学校で実践を、ESDフォーラム（2024年1月20日実施）での研究者や実践者ともに検討し作成しました。報告書・ビデオをご覧いただけると幸いです。

「ミュージアムジャック」（NPO法人里山を考える会考案）とは、明治学園小学校の4年生・93名が、タカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして来館者をガイディングする職場体験カリキュラムです。「ミュージアムジャック」の最大の特徴は、遊び心をくすぐり活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」（田宮,2018）と、ガイドやスタッフといった職場体験を通して、子どもたちが身近な環境の成り立ちや私たちが直面するグローバルな現状を学ぶところにあります。

自発的な活動としての遊びは、成功するかどうかはわからない。見返りがあるかどうかはわからない。けど、おもしろいからやってみようという特徴があります。遊びだから、繰り返し試すことが可能で、経験に基づいた戦略を複数もつことができます。複雑な社会において最も必要とされる能力と思われます。遊びを通してより論理的で合理的な行動が可能となっていくことでしょう。

文献：田宮　縁（2018）生活科・飼育単元における学習過程と子どもの思考の変容：期限付きモルモット貸出事業を活用した実践の量的・質的検討.
日本生活科・総合的学習教育学会 せいかつ&そうごう 第26号.pp.58-67.

おとなのミッション：持続可能な社会の創り手の育成
子どものミッション：ミュージアムジャック

基本情報から記入してみましょう。
事前に共有しておいたほうがよいことだけをシンプルに示しました。
チェックリストとして活用することも可能です。

基本情報

学校名	社会教育施設、団体等の名称
所在地	所在地
教育理念・教育目標等	目的・使命等

対象となる子どもの実態

子ども、先生の課題意識からスタートするので、クラス単位での実践がより効果的であると思われます。

学年	クラス	人数
		名

子どもの実態	子どもの課題意識

めざす子どもの姿（単元目標）

方向目標で書き、双方で共有しましょう。

地域の方々へ

学校の先生が子どもたちをよく見せようと張り切りすぎないように、チェックしてください。
やる気になれば、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、ミュージアムジャックに向かっていきます。
極端な正確さや見栄えだけを求めると、リアルごっこ遊びの魅力が半減します。

次ページのミュージアムジャックのアウトラインや
報告書（「ミュージアムジャック概要」と「実践報告」スライド）を参考に、双方で考えてみましょう。
総合的な学習の時間を核としながら、他教科との連携も意識してください。

ミュージアムジャックの構想

	ストーリー	スケジュール	子どもの活動と思い・願い
モジュール0 身近な課題との出会い 学校 / 地域			
モジュール1 対象との出会い 「リアルごっこ遊び」に巻き込む仕掛け 学校 / **地域**			
モジュール2 調べてみる さまざまな方法（繰り返しの訪問、図書館、インターネット、ヒアリング…）で 学校 / 地域			
モジュール3 つくって、試してみる それぞれの得意なところからのガイディング 葛藤場面を設定することでより一層学びは深まります 学校 / 地域			
モジュール4 ミュージアムジャック 学校 / **地域**			

ミュージアムジャック2023のアウトライン

★…子どもの思いや願いの結果もたらされること

	ストーリー	子どもの活動	子どもの思い・願い
モジュール0		缶ビン資源化センター等への社会科見学、出前授業など (社会科)	自分たちだけの取り組みだけでは限界があるな・・・。たくさんの人に協力してもらったらいいんじゃないかな!
モジュール1	秘密の指令 「ミュージアムジャック大作戦」	ミュージアム見学 ワクワクするきっかけ ・作戦会議、コードネーム、合言葉(ゼロ・カーボン)・・・	おもしろそう!やってみたい! ★直感から動き出す。
モジュール2	偵察	ガイド内容の検討(4時間) 各グループでの準備(10時間) (他の活動への発展) 新聞づくり取材、グループでの新聞づくり(国語科)など	ジャックの目的は、たくさんの人に環境問題について伝えることだ! ★活動の中で、目的が明確に。活動も広がる。
モジュール3	逆偵察	ミュージアムスタッフ学校訪問、アドバイス(1時間) ガイド内容のブラッシュアップ	発表会じゃない。ガイドをするんだ!もっと分かりやすくするにはどうすればいいかな。 ★「自分」から「相手」へ、意識の変容
モジュール4	ミュージアムジャック	ジョブ体験:仕事の役割を知る。やってみる。 エコ探究:来場者へのガイド	本物の社会で全力を発揮! ★充実感をともなった学びが実現※

※充実感とは、「自分を理解してくれる人がいるという実感」、「友達とつながっているという実感」、「自分が成長しているという実感」、「夢中になれることがあるという実感」が統合された状態

ESDフォーラムからみえてきたミュージアムジャックのポイント

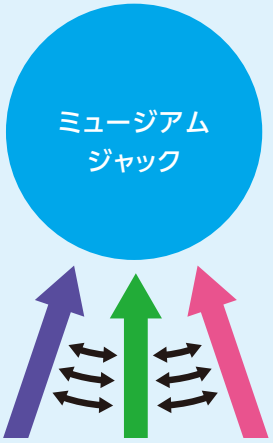
社会教育施設等との連携

ミュージアムジャックは、本物の社会の中で本物の人と関わって行うからこそ生まれる教育活動です。「等」とつけてあるのは、社会教育施設に限ったことではなく、子どもと関わるすべてのおとなが持続可能な社会の創り手の育成をともに考えていく必要があります。教育は変わろうとしています。また、地域のおとなも持続可能な社会の創り手として生きていくことがせまられています。

子どもたちは自らの課題に対し、自ら考えて行動を起こすことが求められており、地域のおとなも、教えるだけでなく、子どもの実態に応じて導いていくことが大切で、そのためには学校の先生と課題や方法を共有することが必要です。おとなも子どもと同じ地平に立って一緒に学んでいきましょう。

特別支援教育

ミュージアムジャックの考え方や方法は、特別支援学校での「生活単元学習」や「遊びの学習指導」で脈々と積み重ねてきた研究と一致しています。「主体的」にということは、具体的には「本気である」かつ「楽しい」ということであり、一人一人が自分のやり方で取り組んでおり、テーマもそれぞれにあります。そこで大切なことはみんなで向かう方向性、目的がきちんとしていること、そして、一人一人を尊重するクラスの雰囲気なのではないでしょうか。



個別最適な学び・
協働的な学びを実現

幼児教育からの接続

共感し、学び、行動変容へつなげていく仕掛けは、発達段階に応じたものでなければいけません。おとなの願いやねらいを優先させるのではなく、子ども側からの「楽しさ」を考えること、また、子どもの声をよく聞き、とらえるセンスが子どもに接するおとなには求められています。具体的には、幼児期には小学校で扱う材(地域の施設や地域の人など)に親しみをもつこと、繰り返し遊びに行くだけでも十分です。

ESDでは特に、共感、理解、行動に関する資質・能力を重視することでSDGsの前進に貢献し、
教育が、個人の成功だけでなくグローバル・コミュニティの集団的な生存と繁栄に貢献するような将来を構築します。

文献:『持続可能な開発のための教育. ロードマップ』https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000384611

ミュージアムジャックでは、子どもはそれぞれの興味や関心・方法でミッションにむかっていきます。
その中で、共感、理解、行動に関する資質・能力を身につけていきます。

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるためのカリキュラムパッケージ　ミュージアムジャック2023

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局　静岡県静岡市大谷836 静岡大学教育学部

プロジェクトリーダー　田宮 縁　tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp

令和6年度文部科学省ユネスコ活動費補助金　SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるための

カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック 2024

社会教育と学校教育の融合の必要性

現行の学習指導要領前文では「持続可能な社会の創り手の育成（ESD）」が掲げられ、各教科にその理念が反映されています。また、「主体的・対話的で深い学び」というフレーズは、聞いたことのない教育関係者はいないでしょう。平易な言葉に置き換えてみると、一人一人が関心に基づいた課題に積極的に取り組み、多様な経験をもつ方、年代の方との対話を通して課題解決に向けて繰り返し学ぶことが重要だということです。

この背景には、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちにつけてほしい資質・能力は、従前の教育内容・方法だけでは身につけていくことが難しくなってきているという現実があります。そのため、学校は地域のさまざまな経験と知見を有する人や組織と互恵的な連携を図ることが必要となってきているのです。学習指導要領前文で述べられている「カリキュラム・マネジメント」、「地域に開かれた教育課程」、「学校種間の接続」は学校と地域の連携のアウトプットであり、ともに活動する中で、子どもだけでなく、おとなにも持続可能な社会の創り手としての価値観と行動の変容というアウトカムがもたらされます。

社会教育と学校教育の融合のためには、お互いが理解できる言葉で語り合うことが必要です。そのためのツールとしてこのシートを作成しました。考えを共有し、実態にあったオリジナルカリキュラムを両者で作り、実践をブラッシュアップしていきましょう。

ミュージアムジャックとは

社会教育と学校教育が連携し、おとなも子どもも持続可能な社会の構築をめざし行う教育活動。
子どもの遊び心をくすぐり探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」（田宮 ,2018）が特徴。
本物のミュージアムでガイドやスタッフの仕事を行う職場体験プログラム。

「カリキュラムパッケージ　ミュージアムジャック2024」は以下の3点で構成されています。

本シート

https://knotworklab.com/data/2439/

「社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発」報告書

https://knotworklab.com/data/2440/

ビデオ『ミュージアムジャック2024』（4分57秒）
NPO法人里山を考える会制作・提供

https://knotworklab.com/data/2404/

自発的な活動としての遊びは、成功するかどうかはわからない。見返りがあるかどうかはわからない。けど、おもしろいからやってみようという特徴があります。遊びだから、繰り返し試すことが可能で、経験に基づいた戦略を複数もつことができます。複雑な社会において最も必要とされる能力と思われます。遊びを通してより論理的で合理的な行動が可能となっていくことでしょう。

文献：田宮　縁（2018）生活科・飼育単元における学習過程と子どもの思考の変容：期限付きモルモット貸出事業を活用した実践の量的・質的検討.
日本生活科・総合的学習教育学会 せいかつ&そうごう 第26号.pp.58-67.

おとなのミッション：持続可能な社会の創り手の育成
子どものミッション：ミュージアムジャック

基本情報から記入してみましょう。
事前に共有しておいたほうがよいことだけをシンプルに示しました。
チェックリストとして活用することも可能です。

基本情報

学校名	社会教育施設、団体等の名称
所在地	所在地
教育理念・教育目標等	目的・使命等

対象となる子どもの実態

子ども、先生の課題意識からスタートするので、クラス単位での実践がより効果的であると思われます。

学年	クラス	人数
		名

子どもの実態	子どもの課題意識

めざす子どもの姿（単元目標）

方向目標で書き、双方で共有しましょう。

地域の方々へ

学校の先生が子どもたちをよく見せようと張り切りすぎないように、チェックしてください。
やる気になれば、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、ミュージアムジャックに向かっていきます。
極端な正確さや見栄えだけを求めると、リアルごっこ遊びの魅力が半減します。

次ページのミュージアムジャックのアウトラインや
報告書（「ミュージアムジャック概要」と「実践報告」スライド）を参考に、双方で考えてみましょう。
総合的な学習の時間を核としながら、他教科との連携も意識してください。

ミュージアムジャックの構想

	ストーリー	スケジュール	子どもの活動と思い・願い
モジュール0 身近な課題との出会い 学校 / 地域			
モジュール1 対象との出会い 「リアルごっこ遊び」に巻き込む仕掛け 学校 / **地域**			
モジュール2 調べてみる さまざまな方法（繰り返しの訪問、図書館、インターネット、ヒアリング…）で 学校 / 地域			
モジュール3 つくって、試してみる それぞれの得意なところからのガイディング 葛藤場面を設定することでより一層学びは深まります 学校 / 地域			
モジュール4 ミュージアムジャック 学校 / **地域**			

ミュージアムジャック2024のアウトライン

★…子どもの思いや願いの結果もたらされること

	ストーリー	明治学園小学校4年 × 北九州市タカミヤ 環境ミュージアム	伊豆の国市立 大仁北小学校5年 × 伊豆半島ジオパーク ミュージアムジオリア	富士市立田子浦幼稚園 × 静岡市立日本平動物園	子どもの思い・願い
モジュール0		缶ビン資源化センター等への社会科見学、出前授業など（社会科）	ジオ講座、フィールドワーク（大仁金山跡、水晶山、白鳥山、長泉ビジターセンター）	ミミズコンポスト、SDGsデジタル絵本「どうぶつといっしょにちきゅうのみらいをかんがえよう」、紙すき遊び…	自分たちだけの取り組みだけでは限界があるな…。 たくさんの人に協力してもらったらいいんじゃないかな!
モジュール1	秘密の指令 「ミュージアムジャック大作戦」	ミュージアム見学 ワクワクするきっかけ ・作戦会議 ・コードネーム ・合言葉（「ゼロ・カーボン」「ジオ・リア」）…		日本平動物園でのガイドツアー	おもしろそう! やってみたい! ★直感から動き出す。
モジュール2	偵察	ガイド内容の検討 各グループでの準備 他の活動への発展 ・新聞づくり取材 ・グループでの新聞づくり（国語科）など		川組　園外保育翌日、一人の子どもが自宅で描いた「動物のヒミツ」を持ってきたところから、クラスでの図鑑づくりが始まる 月組　動物園で出会った動物やシマミミズ、田子浦港のシラスが登場する創作劇	ジャックの目的は、たくさんの人に ・環境問題 ・南から来た火山の贈り物 ・動物のヒミツ について伝えることだ! ★活動の中で、目的が明確に。 活動も広がる。
モジュール3	逆偵察	ミュージアムスタッフ学校訪問、アドバイス ガイド内容のブラッシュアップ	学校のお祭り「北っ子集会」での子どもたちの発表に対してジオリアのガイドがアドバイス		発表会じゃない。ガイドをするんだ! もっと分かりやすくするにはどうすればいいかな。 ★「自分」から「相手」へ、 意識の変容
モジュール4	ミュージアムジャック	ジョブ体験:仕事の役割を知る。やってみる。 エコ探究・ジオ探求：来場者へのガイド		複数の子どもが家族と動物園に行き家族にガイド。 図鑑や創作劇を園内で披露。	本物の社会で全力を発揮! ★充実感をともなった 学びが実現※

※充実感とは、「自分を理解してくれる人がいるという実感」、「友達とつながっているという実感」、「自分が成長しているという実感」、「夢中になれることがあるという実感」が統合された状態

先生自身も心弾む体験が可能に!!

「真剣な表情で取り組む子どもの姿に感動しました。校内では見ることのできない子どもの姿を見ることができ正直うれしかったです。一人一人の子どもの理解が深まり勉強になりました。」

「カリキュラムパッケージ
ミュージアムジャック2023」には、
ミュージアムジャックのポイント
なども記載してあります。

https://knotworklab.com/data/2041/

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるためのカリキュラムパッケージ　ミュージアムジャック2024

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局　静岡県静岡市大谷836 静岡大学教育学部

プロジェクトリーダー　田宮 縁　tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp

おとなの学び直し

自分でつくる
ミニ絵本

「2025年度生涯学習演習」受講者20名が
静岡市立登呂博物館を誌上でジャックします！

静大生による誌上ミュージアムジャック

今までみえなかった登呂遺跡がみえる。

登呂遺跡の発見～戦後の人々の思いを未来につなぐ

思いがけない発見

登呂遺跡の発見は、1943（昭和18）年。
太平洋戦争のさなか、
静岡市南部石田地区に軍需工場建設のため、
トロッコで運んだ有度山の山土や
周囲の田んぼの土を使い土地を造成していた時、
田んぼから弥生土器のかけらや
木片、木杭などが大量に見つかりました。

1943

静岡大空襲のなかで

軍需工場を目標に空襲が、1945（昭和20）年4月以降本格化。6月20日の静岡市への空襲では、市街地が一夜にして焼け野原となりました。静岡市歴史博物館に位置していた静岡県立葵文庫（現 静岡県立中央図書館）に保管されていた出土遺物も大きな被害を受けましたが、図書館長の加藤忠雄氏のとっさの判断で出土品を水槽に入れたことで一部は焼失から免れました。

加藤氏が命懸けで守ったと思われる出土品 ＊

1945

戦時下での発掘調査

戦時中ではありますが、その重要性から静岡県による発掘調査（第1次調査）が行われ、水田の畦畔、住居跡、倉庫跡、井戸跡などが発掘されました。そのほか柱や杭列などの住居構造を示す遺構と、土器・石器・木器・金属器・青銅器などの多種多様な遺物も見つかりました。

登呂遺跡
第一次発掘調査
の様子 ＊

日本の歴史観を変えた転換点

登呂遺跡の発見と発掘調査は、科学的根拠のもと、弥生時代の稲作文化を証明し、神話に依存した歴史観から科学的実証に基づく歴史観へと転換させました。登呂遺跡は日本考古学の金字塔とされ、その後の考古学に大きな影響を与えました。また、学校教育における子どもの学びや戦後の教育を支える大きな存在となりました。

発掘調査に参加するユース

1946（昭和21）年、報道関係者、市議会議員などにより、「静岡県郷土文化研究会」を立ち上げ、地元での発掘調査の受け皿がつくられ、翌1947（昭和22）年、「静岡市登呂遺跡調査会」が組織され、本格的な発掘調査の準備が整いました。市内の旧制中学校、女学校の生徒を中心に「静岡市古代史研究学徒会」も結成されました。生徒らは、発掘調査の手伝いとともに発掘調査中の2ヶ月間、NHK静岡放送局にて「今週の登呂」と題して、毎週ラジオで学徒会の発掘経過や遺跡の概要を発信していました。

1947（昭和22）年7月13日の鍬入れ式 ＊

1950

戦後の教育実践

静岡大学教育学部附属静岡小学校では、「教科をのりこえる学習～登呂の子ども」をテーマに10年間生活教育にチャレンジ。研究記録をまとめたものが、1957（昭和32）年に書籍として刊行されました。そこには、竪穴住居を実際の3分の1でつくり、火を起こし、魚を焼いたり、古代に思いをはせ、祭りを楽しんだり、登呂遺跡を対象に学ぶ子どもたちの姿がありました。現在、大切にされている合科的・関連的な学習の原点がここにあるように思います。

今も歌い継がれている校歌

登呂遺跡周辺に位置する静岡市立中田小学校、中島小学校は、昭和12年尋常小学校として開校しました。戦後、1947（昭和24）年に両校とも校歌を制定しています。その歌詞には、「新しき世」、「民主自由」などの文言とともに「登呂の遺跡」が記されています。登呂遺跡は新しい社会のシンボルだったのかもしれません。今もその精神は子どもたちに引き継がれています。

現在

文献：岡村渉（2014）『弥生集落の原点を見直す・登呂遺跡』新泉社

令和7年度 しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業
田宮縁（静岡大学教育学部教授）　柿島安博（中央動物総合専門学校顧問）
監修：静岡市立登呂博物館
連絡先：静岡大学教育田宮研究室　〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp　https://knotworklab.com

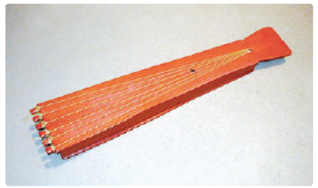
＊ 写真提供：静岡市立登呂博物館

プロローグ — Prologue

静岡のものづくりのルーツは登呂遺跡にあった

1943年、日本で最初の琴が出土。これまでに3点の琴がみつかっています。そのうちの一つは、琴版に共鳴箱がつく1メートルを超える箱づくりのもので、全面に朱漆を塗ったつくりでした。他の遺跡では、土笛や銅鐸なども出土しており、ムラの祭祀で使われていたと考えられています。登呂のムラから駿河漆器がスタートしたかもしれません。

遺跡で発掘された漆塗りの琴 ＊



復元された朱漆が施された琴 ＊

ミュージアムジャックとは — About

ミュージアムジャックとは、社会教育と学校教育が連携し、おとなも子どもも持続可能な社会の構築をめざし行う教育活動。子どもの遊び心をくすぐり探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」（田宮，2018）が特徴。本物のミュージアムでガイドやスタッフの仕事を行う職場体験プログラム。

学生の声 — Voice

ミュージアムジャックで展開される探究のサイクルを学んだ後、登呂遺跡を訪問。

公園や周辺地域を歩きながら、館長、学芸員さんからガイドをしていただき、そこで沸き起こってきた問いを追究する旅が始まりました。文献や資料などを調べていくうちに、登呂遺跡は昔のことではなく、今、そして未来とつながっていることがみえてきました。「静岡にある遺跡」がグッと身近になりました。（1年 村松奏汰）

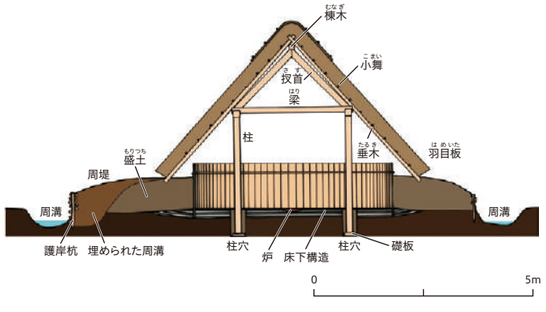
ミニ絵本の作り方

1. 反対側に折り返し真ん中の山折り線Aで山折りにします
2. さらに半分に折り、しっかりと折り目をつけます
3. ❶の状態にもどして、切り込み線に沿って、紙の半分まで切り込みをいれます
4. 谷折り線Bに沿って、じゃばら状に折ります
5. 山折り線Cに沿って、山折りにします
6. 1番の絵が表紙になるように折りたたんで、完成！

ミニ絵本は、2025年7月12日（土）に行われたESDフォーラムを再構成したものです。

なぜ、住まいは円形だったのか
～古代の人々からの学び

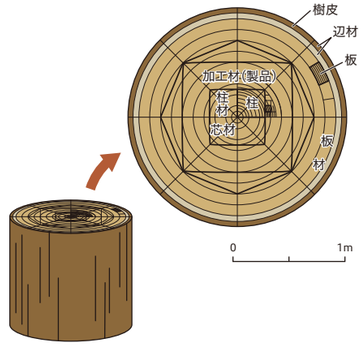
全国的にみて、縄文時代から弥生時代前半までの住まいは、半数以上が円形だったといわれている。円形の理由を紐解くと、「建設の容易さ」、「雨風の耐久性」、「熱効率」、「空間の有効利用」、「宗教的・文化的要素」とあった。
「熱効率」に注目すると、暖炉や囲炉裏から熱を循環させやすいという利点がある。また、円形の側面全体に葺きやすい茅の屋根は、厚みがあり空気を多く含むため、断熱性を持っている。古代の人々は、限られた材料を使って快適に暮らすためのさまざまな工夫をしていた。



登呂遺跡の竪穴住居
出展：岡村（2014）

資源を無駄なく使う登呂の人々
～豊富なスギの活用術

東日本の弥生時代の住居は人が住む部分を掘り下げて床をつくる竪穴住居が基本だが、登呂ムラは地下水位が高いため周囲に土を盛り上げて竪穴住居と同じ構造にしている。
そこに使われている羽目板や柱の角材には、スギが使われていた。当時は大井川から狩野川にかけてスギが繁茂していたといわれている。ムラの人々はスギの大径木を有効に利用していた。スギの加工に関しては鉄製品が必要だが、登呂の土壌は鉄が腐りやすいという性質のため出土されていない。



スギの大径木の利用
出展：岡村（2014）

高床倉庫のネズミ返しに注目！
～登呂での大発見

登呂遺跡の高床倉庫の用途不明の木製品を文化人類学の研究者が「ネズミ返し」と推定した。地質学・動植物学などの各分野の研究者が加わった「静岡市登呂遺跡調査会」の功績である。「ネズミ返し」とは、ネズミの侵入や移動を物理的に防ぐための器具や構造物であるが、現在の船舶の係留ロープや倉庫の貯蔵施設にも取り付けられる器具として進化しているのかもしれない。温帯のクマネズミは木を登る力が強く、ネズミ返しも大きかったといわれている。

登呂遺跡のネズミ返し

登呂のムラにいた
動物たち

ネズミがいたということは捕食者がいたはずである。仏教伝来とともに中国から来たと考えられているネコ以外の生物を考えると、ヘビなどがいたのかもしれない。出土品には動物の骨や角、それらを利用した道具（加工しやすいシカの骨は釣り針、かんざし、石を割るハンマーなど）もある。
また、土器には、イノシシやウマなどの動物が描かれたものもある。イヌに関しては、狩りや番犬としての関係性が続く一方、発掘されたイヌの骨が切断されていたことから、時には人がイヌを食べていたこともわかってきた。

土器に描かれた生き物
『有東遺跡第8次調査出土鹿絵線刻土器模式図』
資料提供：静岡市

登呂の人々の食卓
～豊かな食文化は今につながる

つかまえたシカやイノシシ、魚、貝などは、焼いて食べるだけでなく、米や他の穀物と一緒に煮て食べられていたことが出土された土器の内部に残って炭化した成分からわかった。
日本で初めて弥生時代の水田跡、住居跡が見つかった登呂遺跡。当時食べていたのはコメだけではなかったのだ。また、カツオやイルカという静岡ならではの食べ物も登呂のムラで食べられていた。

清水魚市場 河岸の市で競売されているイルカ

登呂のムラは、
2700年前ラグーンだった

登呂遺跡は2度目の洪水で終焉を迎えたといわれているが、弥生時代後期にはたびたび洪水の被害を受けるようになっていた。その背景には、気候変動があったと考えられている。雨量の増加により安倍川上流で土砂崩れが発生し、流出した土砂で下流の河床上昇により流れが堰き止められていたり、海面が上昇し安倍川の流れが滞ったりする状況にあった。
一方、安倍川の流れを見ると、現在と大きく違っていたことが想像できる。また、2700年前は、登呂のムラのあたりはラグーンだったともいわれている。

今から500～600年前の安倍川の流れ
参考：国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所
https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/river/overview-abe/

登呂の人々は低湿地性の土地で
水田稲作を発達させた

登呂のムラの人々にとって洪水は脅威であるが、良質な水田をもたらすものであった。番うしていくには危ないと判断した人々は、被害の少ない場所に移り住んでいったと考えられている。洪水とよく付き合いながら、登呂では古墳時代前～中期は下水田稲作を続けた。
静岡県東部地区の弥生時代の遺跡では、戦乱や争いに対する防御のため高地に移動していったといわれているが、登呂のムラとその周辺集落は補完関係を築き、平和に暮らしていたと思われる。

有東遺跡群周辺（静岡平野南部）の遺跡分布
参考：岡村（2014）

登呂遺跡のヒミツ
歩いてみないとわからない

社会6年の教科書の弥生時代のイメージ図は、環濠のなかの平坦な土地に竪穴式住居群、高床式倉庫群などがバーンと描かれ統率の取れた生活が営まれたことが想像できる。このようなムラをつくり集まり、やがて古墳時代に移行していったのだろう。
一方、登呂遺跡には環濠がない。この平地式住居※と高床倉庫が一対になっており、水田も一体となっている。
平地式住居の周囲には堀があり、水を逃す構造となっている。起伏は歩いてみないとわからない。

登呂遺跡の平地式住居と高床倉庫
※登呂のムラの場合「竪穴式住居」を建てる場所として不向きで、平地式住居がつくられた。

ESD フォーラムミュージアムジャック 2025 報告書
2026 年 3 月
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局
静岡市駿河区大谷 836　静岡大学教育学部
tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp

国立大学法人
静岡大学